

**第 5 次田尻町総合計画策定に係る
調査報告書**

平成 31 年3月

田 尻 町

<目次>

1. 田尻町を取り巻く社会動向	1
1) 人口減少と少子高齢化の進行	1
2) 安全・安心への意識の高まり	1
3) 国際化の進展	2
4) 地域の自主性への要請	2
2. 田尻町の現状	3
(1) 人口の状況	3
1) 人口の推移	3
2) 地区別人口の推移	6
3) 世帯の推移	9
(2) 人の動き	11
1) 出生と死亡	11
2) 転入と転出	11
(3) 就業者の状況	12
(4) 産業の状況	14
1) 事業所	14
2) 農業・漁業	16
3) 製造業	17
4) 商業	17
5) 観光	18
(5) 住宅の状況	20
1) 空家	20
(6) 医療・福祉分野の状況	21
1) 医療	21
2) 介護	21
3. 第4次総合計画の進捗状況	22
1) ひとが輝き、未来につながるまち 田尻	22
2) 健やかで、安心して暮らせるまち 田尻	23
3) 資源が活かされ、魅力あるまち 田尻	24
4) みんなでまちづくりを進めるために	26

4. 住民の意識	27
(1) 住民意識調査	27
1) 回答者の属性	27
2) 田尻町の暮らしやすさ	32
3) 今後の定住意向	33
4) 田尻町の良いところ	37
5) 田尻町を活気ある町にするための産業・観光振興	38
6) 田尻町の魅力的な観光資源	39
7) 田尻町の将来像	40
8) 町民参加のまちづくり	41
9) 行政が優先して取り組むべき重要な内容	43
10) 田尻町のまちづくりに関する自由意見	46
(2) 第5次田尻町総合計画策定に係る住民ワークショップ	48
1) 第1回ワークショップでの主な意見	49
2) 第2回ワークショップでの主な意見	51
3) 第3回ワークショップでの主な意見	54
5. 田尻町の課題	57
1) 人口減少と少子高齢化への対応	57
2) 安全・安心への意識の高まりへの対応	57
3) 国際化の進展への対応	58
4) 地域の自主性を高める取り組み	58

1. 田尻町を取り巻く社会動向

1)人口減少と少子高齢化の進行

日本の総人口は減少局面に入り、本格的な人口減少社会が到来している。2015（平成 27）年の日本の総人口は1 億 2,709 万人（国勢調査）となった。国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成 29 年推計）」によると、日本の総人口は 2053 年には1 億人を割ると推計されている。老年人口割合は 2015（平成 27）年の 26.6%で4人に1人を上回る状態であり、一方で年少人口割合は平成 2015（平成 27）年の 12.5%から減少を続け、さらなる少子高齢化の進行が予測されている。

我が国の人口ピラミッドで突出して人口が多い 1947（昭和 22）～1949（昭和 24）年生まれの第 1 次ベビーブーム世代「団塊世代」は、現在 70 歳代に入り、その子どもたちである 1971（昭和 46）年～1974（昭和 49）年生まれの第 2 次ベビーブーム世代「団塊ジュニア世代」は 40 歳代後半にある。「団塊ジュニア世代」が出産年齢を迎えた時期に出生率が低下したこともあり「団塊ジュニア世代」以降には人口の山はみられない。団塊世代に引き続き、今後、団塊ジュニア世代が高年齢層に入ることによる一層の高齢化の進行が予測される。

人口減少及び人口構造の変化は、経済活動の縮小を招き、医療・福祉・年金などの社会保障制度の維持が困難になるほか、都市機能の見直しが必要になるなど、まちづくり全般に大きな影響を与えると考えられる。

2)安全・安心への意識の高まり

近年、台風や局地的な集中豪雨などの風水害をはじめ、東日本大震災に代表される大規模な地震など、全国的に自然災害が多発し大きな被害をもたらしている。また近い将来、南海トラフ地震の発生も懸念されている。防災やまちの安全性に対する住民の意識は高まっている。災害による被害を最小限に食い止めるため、施設面での整備だけでなく、地域における防災組織の充実や避難時の助け合いなどのソフト面での取り組みが求められる。

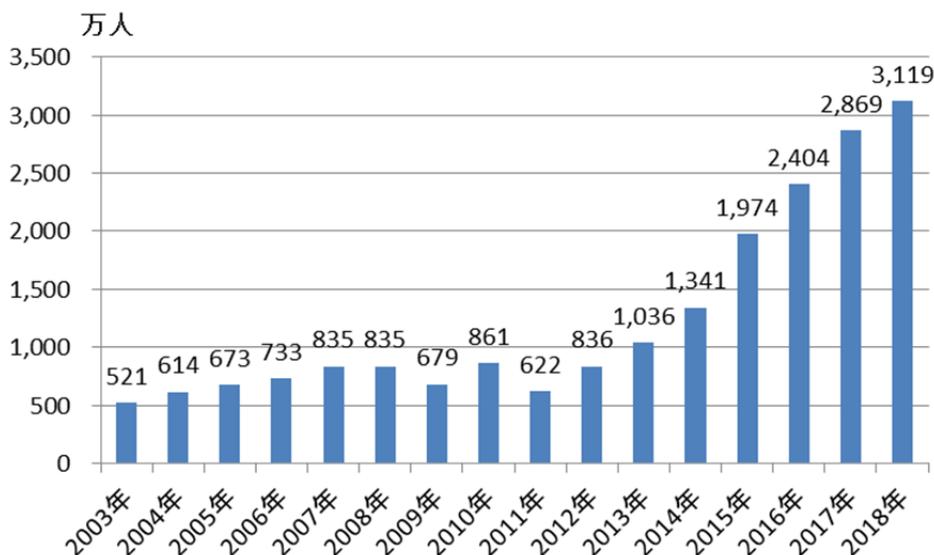
治安面においては、全国の刑法犯認知件数は 2002（平成 14）年をピークにして、その後は減少を続けている。しかし、高齢者などを狙った振り込め詐欺は増加を続けている。刑法犯の検挙率は、1995（平成 7）年から年々低下し、2001（平成 13）年には 19.8%と戦後最低を記録したが、以降は改善傾向にある。

3)国際化の進展

人・もの・情報が地球規模で活発に行き交い、経済活動だけではなく、地域・個人レベルにおいても国際的な交流が広がっている。

近年、日本を訪れる外国人旅行者の数が急増しており、2018(平成30)年には初めて3,000万人を超え3,119万人となった。国の「明日の日本を支える観光ビジョン」(平成28年3月策定)では2020年に4,000万人(2015年の約2倍)を目標としており、今後も訪日外国人旅行者の増加が見込まれる。

訪日外国人旅行者数の推移



出典：日本政府観光局 (JNTO)

4)地域の自主性への要請

人びとのライフスタイルや価値観の多様化、核家族化の進行などにより、地域のつながりが希薄化し、コミュニティの機能低下が懸念されている。一方では、東日本大震災を契機として、人と人の助け合いや支え合いの大切さが再認識されている。

地域の状況やその課題を一番よく知るのにはそこに住む人びとであり、住民が主体的に課題の解決に取り組むことが求められ、最も身近な場として地域コミュニティが期待される。また住民に最も近い自治体である市町村には、自主性と責任を持って行政運営を担うことが求められる。

2. 田尻町の現状

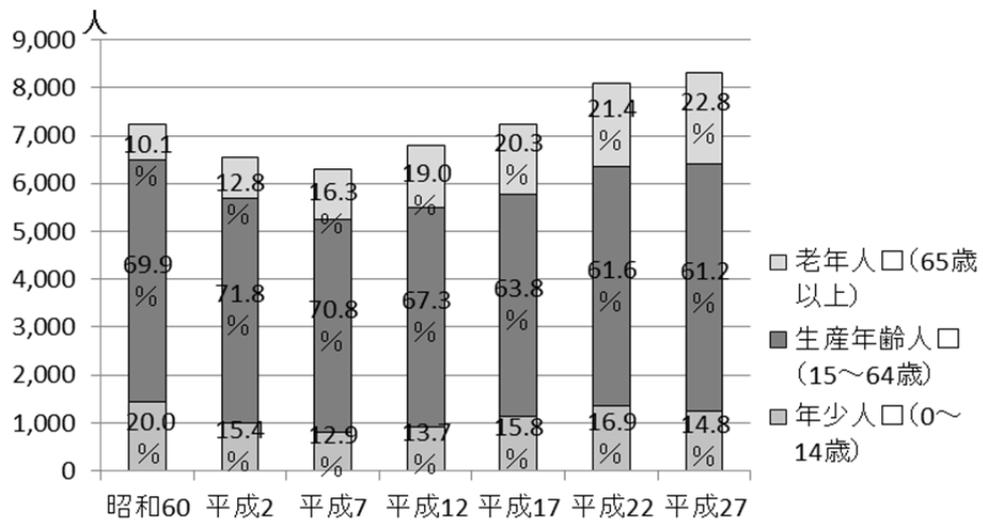
(1)人口の状況

1)人口の推移

田尻町の人口は1995（平成7）年まで減少していたが、1994（平成6）年関西国際空港開港を契機に、人口は反転、増加を続けてきた。さらに2005（平成17）年前後には大規模な住宅開発による人口流入があり、また2012（平成24）年にはりんくうポート南地区で警察学校が立地し、警察学校入寮者数百人の人口が継続して転出入を繰り返している。

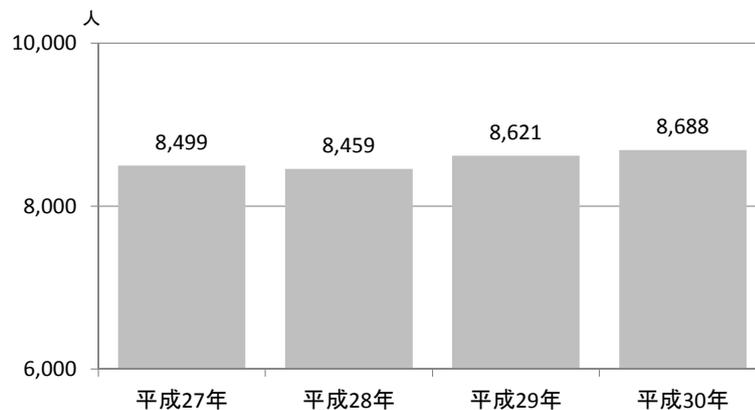
一方で、年ごとに老年人口比率は高くなっており、年少人口比率は横ばいではあるが、高齢化が進行している。

田尻町の人口の推移（国勢調査）



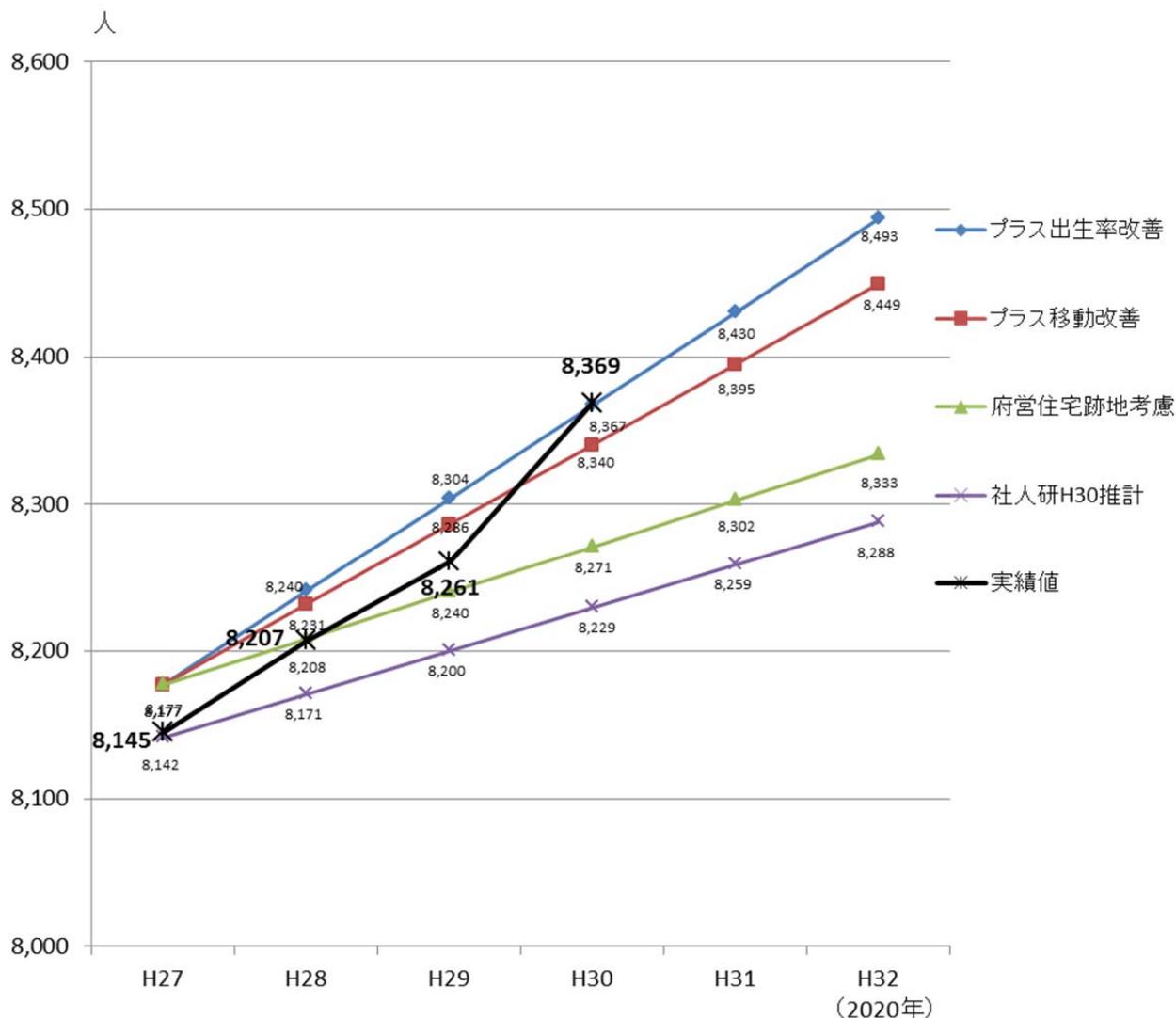
2014（平成26）年以降は、府営住宅跡地での住宅開発（約120区画）が順次分譲され、人口の増加がみられる。

近年の人口増減（住民基本台帳）



各年9月30日

平成 28 (2016) 年 3 月策定の田尻町人口ビジョンの目標値に対して、目標年の 2 年前に当たる現在の状況は、目標の最大値である「府営住宅跡地での開発」+「移動改善（転出・転入）」+「出生率改善」の数値に近いレベルで推移していることがわかる。



※推計の条件

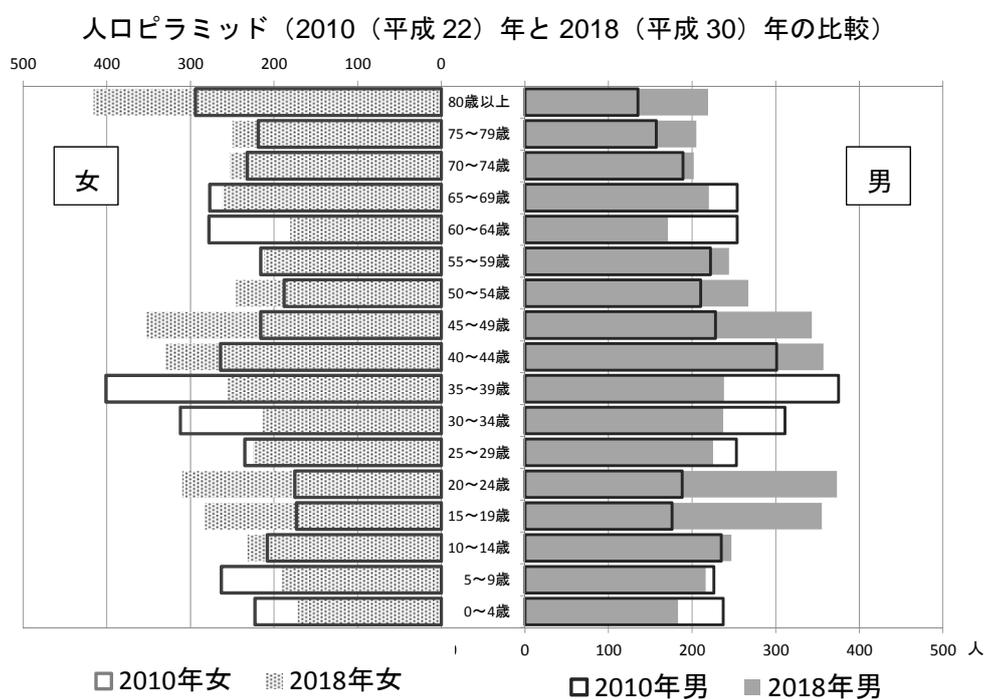
- ①実績値は住民基本台帳の毎年 9/30 日。りんくうポート南地区（警察学校寮）を全町人口から除いている。
- ②社人研 H30 推計は、住民基本台帳と国勢調査の乖離比率（H27 年値）から住民基本台帳人口と比較できるように補正した基準年を導き、5 年毎の推計値から 1 年毎の増加分を算出した。
- ③H27 年は人口ビジョン推計時に住宅開発入居予定分を加えた人口を基準としているため、今回の検証で用いる実績値と異なっている。

なお、現行の第 4 次総合計画において、2020 (平成 32) 年目標年次の人口は 9,773 人 (当時警察学校想定 792 名含む) であり、この目標値の達成は難しいと考えられる。

8年前の2010（平成22）年と2018（平成30）年の男女別5歳階級の人口ピラミッドを比べると、80歳以上の男女と、警察学校入寮者の影響もある15～24歳で大きく増加している。

一方、35歳～39歳は、団塊ジュニア世代の下の世代であり、また2005（平成17）年前後の住宅開発で多くの世帯が入居したことにより2010年では多かったものが、2018年には大きく減少している。

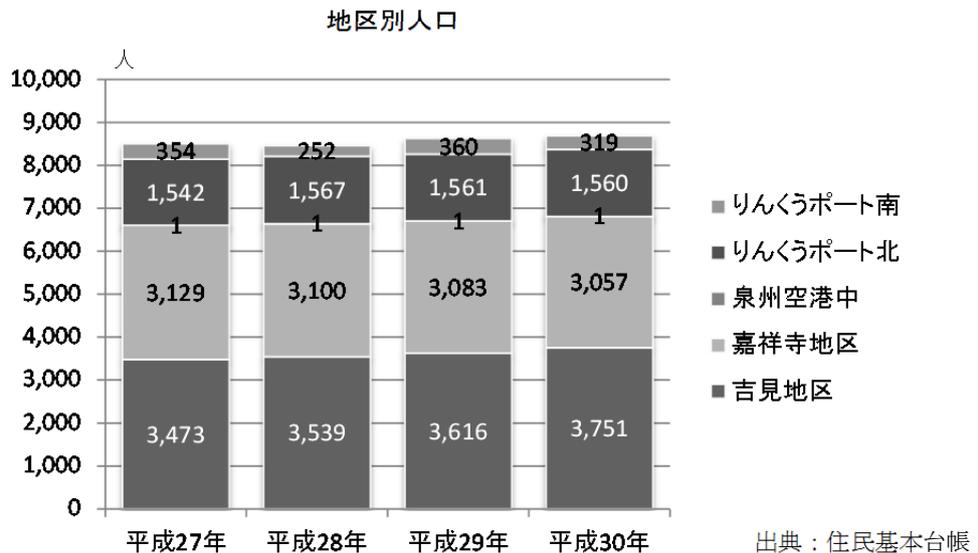
現在も住宅開発により若い世代が転入しているものの、10歳未満の人口は8年前の数には及んでいない。



出典：2010（平成22）年は住民基本台帳3月31日
2018（平成30）年は住民基本台帳9月31日

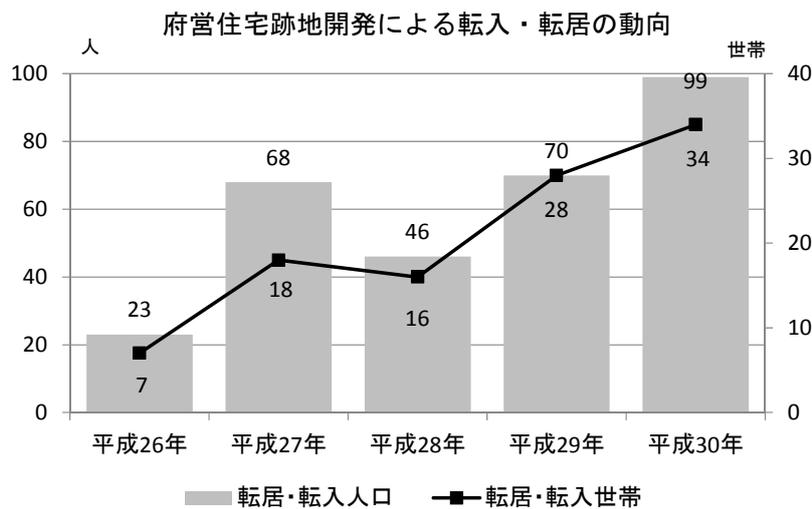
2)地区別人口の推移

近年は住宅開発が行われている吉見地区で人口の増加が見られ、りんくうポート北地区では横ばいの状況である。一方で嘉祥寺地区は近年継続して減少傾向が見られ、2015（平成 27）年からの 4 年間で 70 人近く減少している。



吉見地区の府営住宅跡地における開発区画の残りはわずかとなっている。

（2019（平成 31）年 3 月現在で入居者数 306 人、104 世帯）



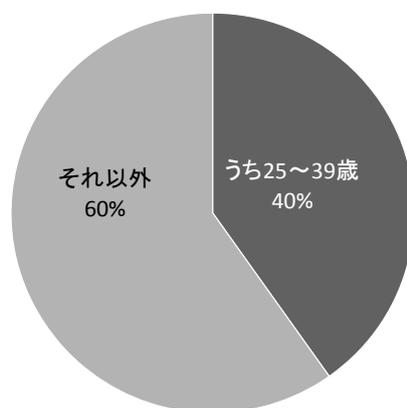
【府営住宅跡地分譲開始】

- 1 期目：2014（平成 26）年度から分譲開始 約 50 区画
- 2 期目：2015（平成 27）年度から分譲開始 約 30 区画
- 3 期目：2016（平成 28）年度から分譲開始 約 40 区画

出典：町資料

分譲地での転入・転居の年齢層は、25～39歳が40%を占めている。

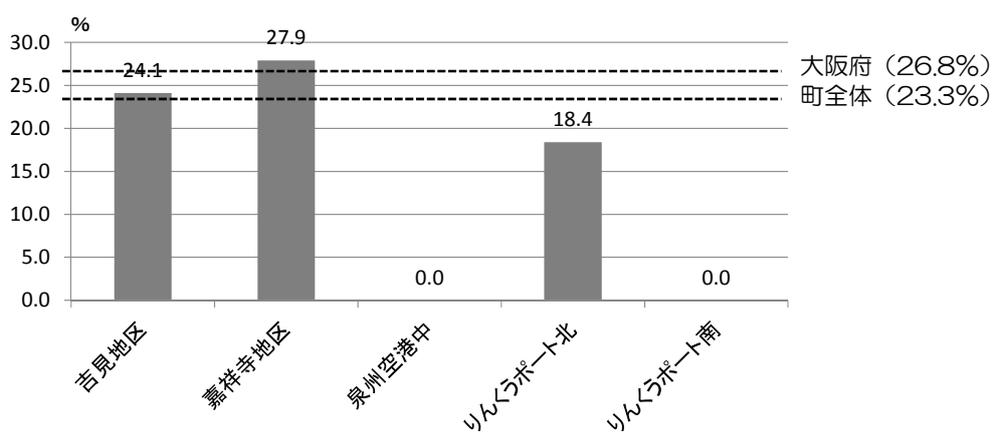
府営住宅跡地開発による転入・転居の年齢層（306人）



出典：町資料

町全体の高齢化率は23.3%で、大阪府全体の26.8%よりも低い。各地区の高齢化率は、嘉祥寺地区が大阪府全体を上回る27.9%となっているが、吉見地区24.1%、りんくうポート北18.4%と、それぞれ高齢化率は大阪府よりも低く、特にりんくうポート北は、嘉祥寺地区と比べ約10ポイント低い。

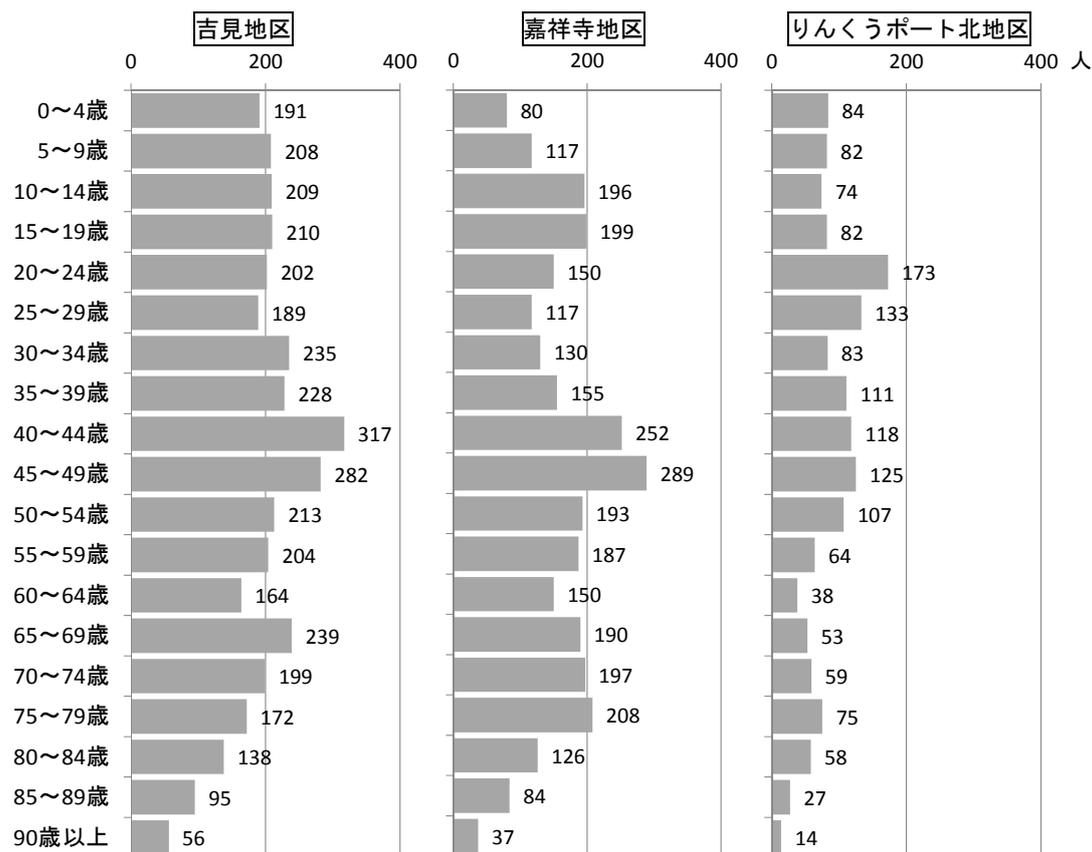
地区別の高齢化率比較（2018（平成30）年）



出典：住民基本台帳

吉見地区、嘉祥寺地区、りんくうポート北地区の年齢 5 歳階級別人口を比較すると、吉見地区嘉祥寺地区では 9 歳以下の人口が他の地区よりも少なく、りんくうポート北地区では 20～24 歳の若い世代が最も多くなっている。

地区別の 5 歳階級別人口比較（2018（平成 30）年）



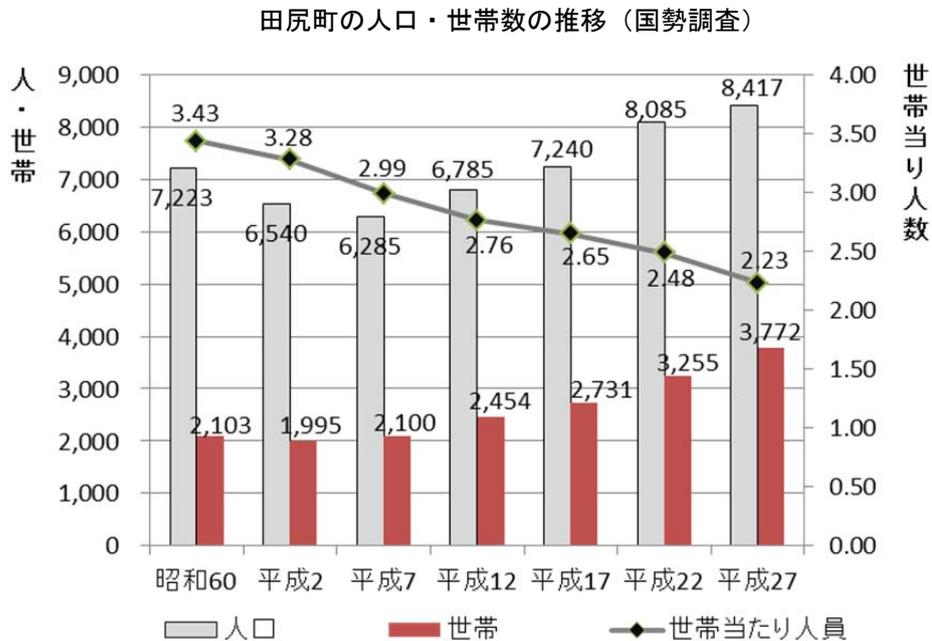
※りんくうポート南地区は警察学校寮のため表示していない

※泉州空港中地区は、人口 1 名のため表示していない

出典：住民基本台帳（2018（平成 30）年 9 月 30 日）

3)世帯の推移

世帯数についても1990（平成2）年まで減少傾向にあったが、人口が増加に転じるとともに、世帯数も増加してきた。一方で、世帯当たり人員は年ごとに減少している。

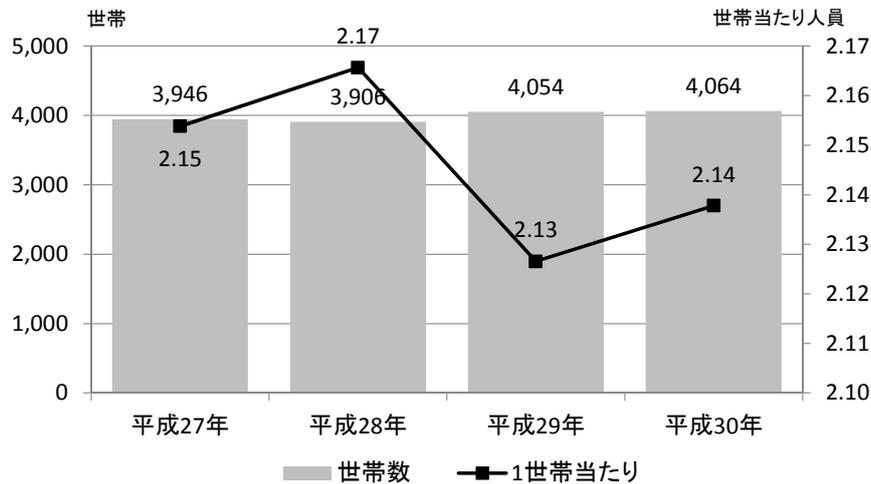


世帯数の増加とともに、単身世帯の増加が顕著となり、2015（平成27）年には全体の4割以上を単身世帯が占めるようになっている。また65歳以上の高齢単身世帯も確実に増加している。



近年の世帯数の推移は、住宅開発が進んでいることもあり、増加傾向が見られる。一方で世帯当たり人員は、高齢単身世帯の増加などもあり、伸びていない。

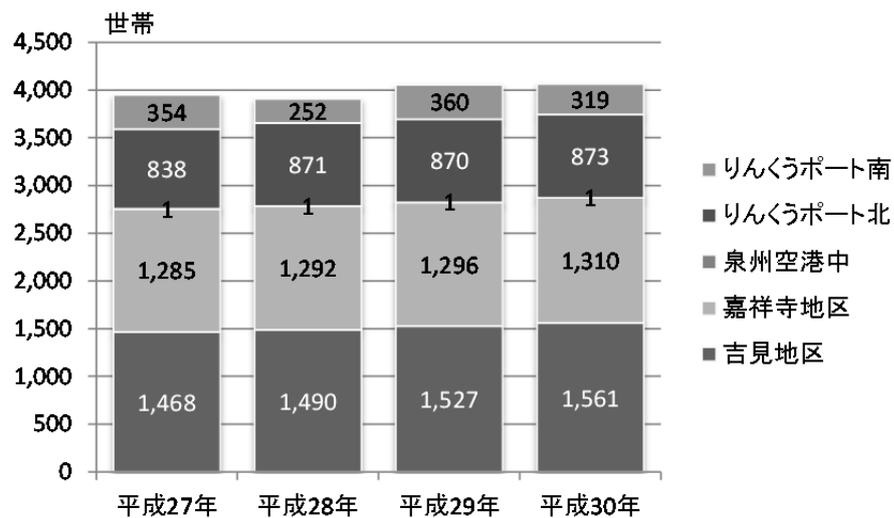
近年の世帯数推移と世帯当たり人員（住民基本台帳）



地区別の世帯数は、どの地区でも増加傾向がみられる。

人口の増減と比べると、人口が減少しつつも世帯数が多くなっている嘉祥寺地区では世帯当たり人員が減少している。

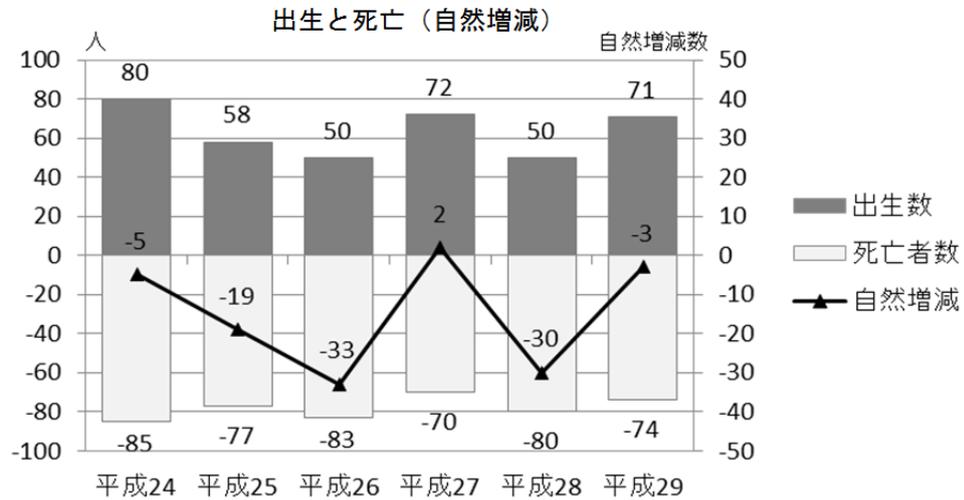
地区別世帯数（住民基本台帳）



(2)人の動き

1)出生と死亡

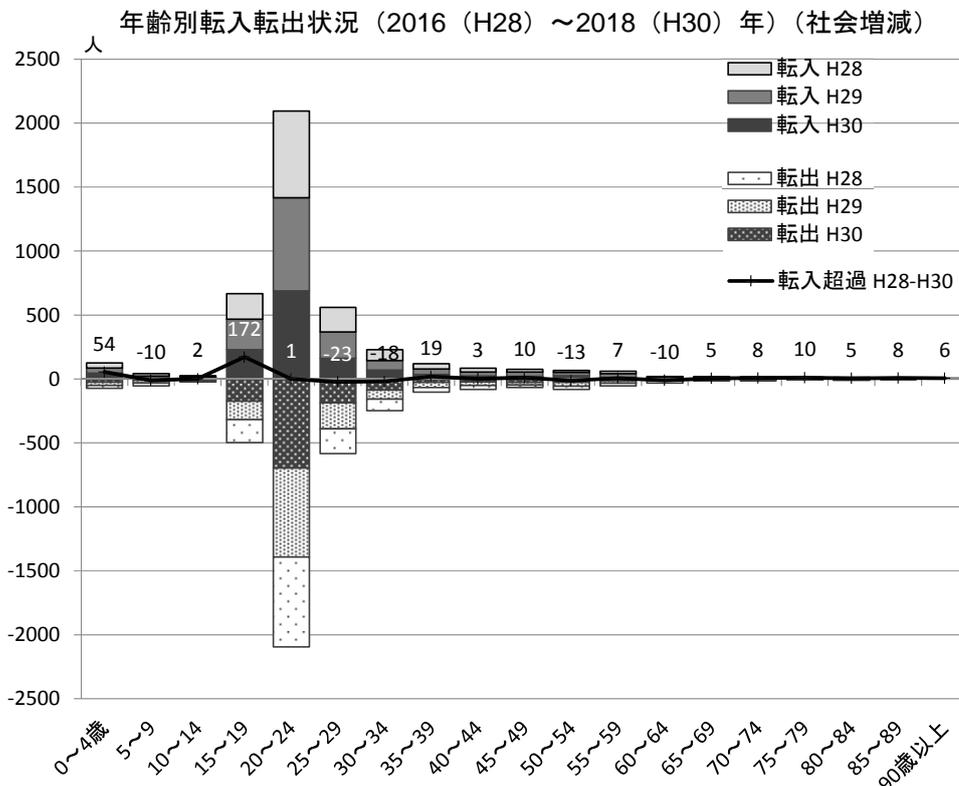
出生数は近年 50～80 人程度、死亡数は 80 人前後となっており、自然減少が続いている。



出典：人口動態統計（厚生労働省）

2)転入と転出

近年 3 年間の転入と転出を年齢ごとにみると、警察学校寮の影響もあり、20～24 歳を中心にその前後の若い世代の転出・転入が多くなっている。



出典：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査（総務省）

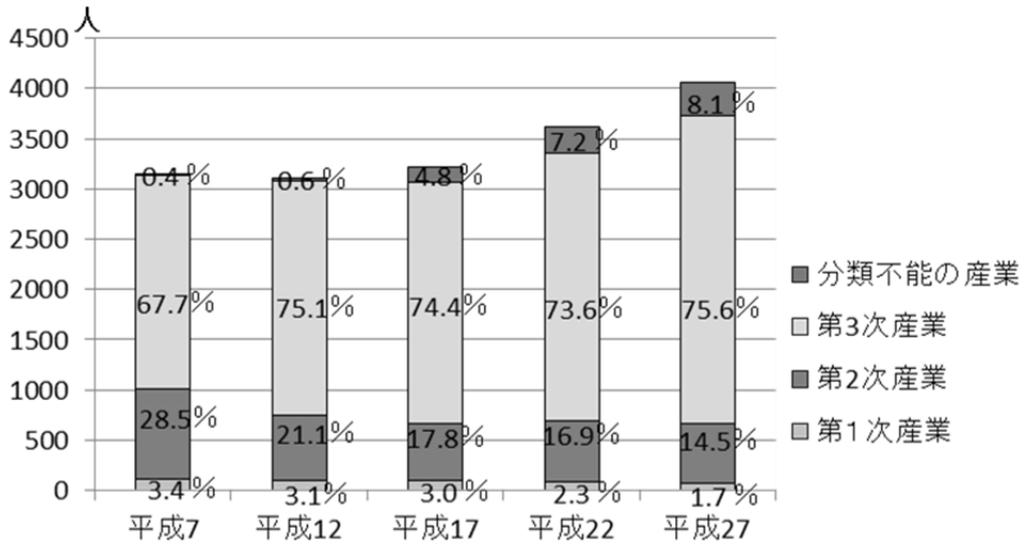
(3) 就業者の状況

田尻町の就業者数は、人口増と対応して2005（平成17年）から増加している。

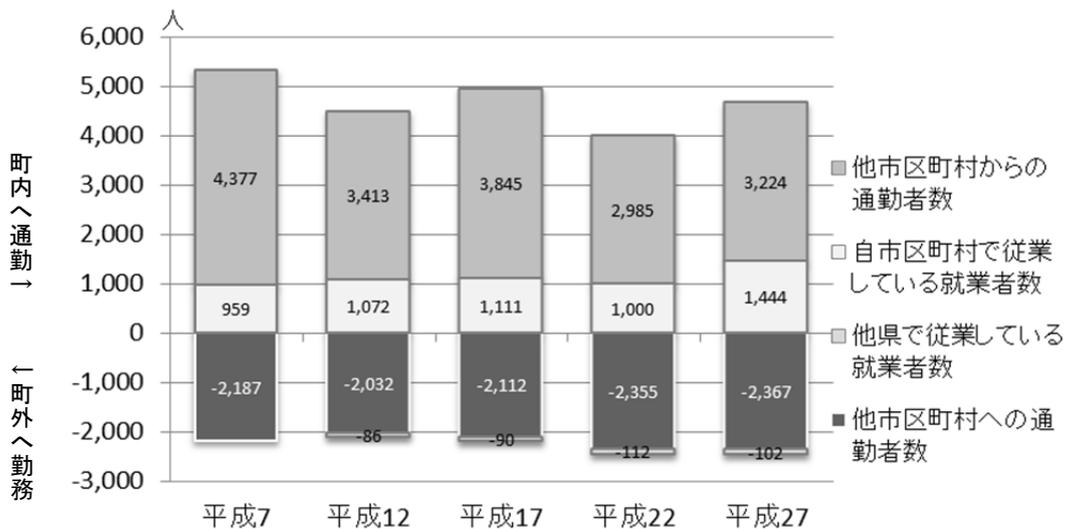
産業別構成は、第3次産業の比率が年々拡大し、2015（平成27年）年には75.6%となっている。一方で第1次産業と第2次産業の比率は低下傾向が見られる。

就業者の通勤の状況は、2015（平成27年）で、3,224人の就業者が本町に通勤、本町で常住して働いている人は1,444人となっている。一方で本町から他市区町村へ通勤している人が2,367人、他府県で就業している人が102人となっている。

田尻町の就業者数（国勢調査）

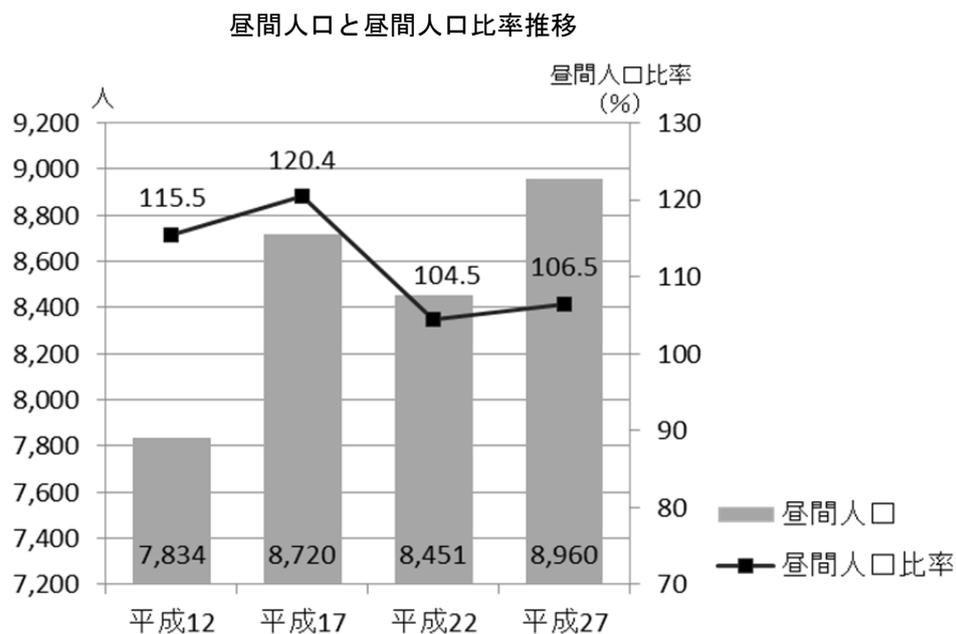


就業者の通勤状況



出典：国勢調査

昼間人口と昼間人口比率の推移をみると、町外への通勤者よりも他市町村からの通勤者数が多いことから 100%を超えており、昼間の人口が多くなっている。これは関西国際空港関連の就業者が大きく影響していると考えられる。2015（平成 27）年には、昼間人口が 8,960 人まで増加している。



出典：国勢調査

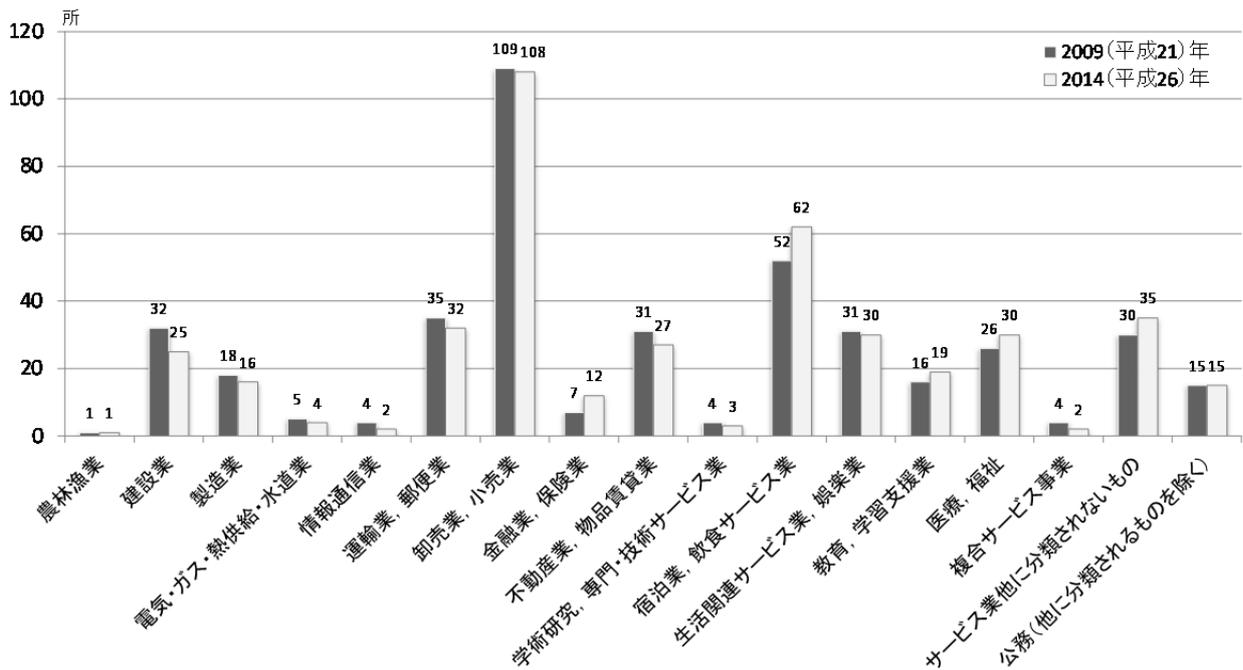
(4)産業の状況

1)事業所

町内の事業所は、2009（平成 21）年に 420 所、2014（平成 26）年に 423 所と若干増加している。産業大分類のうち、増加した事業所は「金融保険業」（7→12 所）、「宿泊業、飲食サービス業」（52→62 所）、「教育・学習支援業」（16→19 所）、「サービス業（他に分類されないもの）」（30→35 所）となっている。

反対に、大きく数を減らしたのが「建設業」（32→25 所）である。

事業所数の推移



出典：経済センサス基礎調査

町内の事業所では、関西国際空港の事業所が大きな部分を占めていると考えられる。

2014年度関西国際空港従業員調査（新関西国際空港株式会社によるアンケート調査）では、2014（平成26）年11月1日時点で、関西国際空港敷地内で業務に従事する事業者数325、従業員数14,701人となっている。同じく2017年度関西国際空港従業員調査（関西エアポート株式会社）では2018（平成30）年1月1日時点で事業者数355、従業員数17,363人に増加している。関西国際空港敷地内での業務事業者の業種の構成は、貨物サービス業が約2割、航空運送事業、旅客サービス業、物品販売業、飲食業がそれぞれ約1割となっている。

関西国際空港敷地内での業務に従事する事業者

業種	2014年度		2017年度	
	事業者数	%	事業者数	%
1 空港運営会社・官公庁等	16	4.9	17	4.8
2 航空運送事業	41	12.6	48	13.5
3 航空機サービス業	20	6.2	23	6.5
4 旅客サービス業	44	13.5	48	13.5
5 貨物サービス業	71	21.8	68	19.2
6 その他サービス業	46	14.2	61	17.2
7 物品販売業	38	11.7	43	12.1
8 飲食業	38	11.7	38	10.7
9 建設業	11	3.4	9	2.5
計	325	100.0	355	100.0

出典：関西国際空港従業員調査（関西エアポート株式会社）

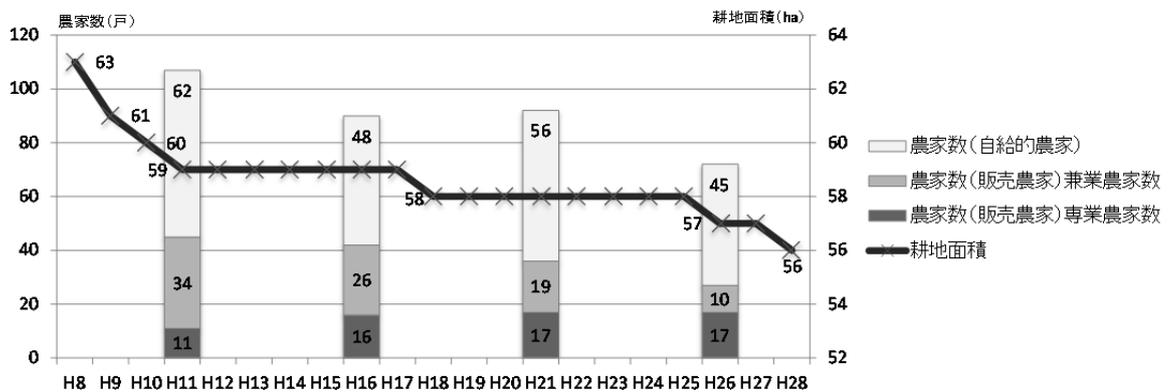
2) 農業・漁業

販売農家と自給的農家を併せた農家戸数は 1999（平成 11）年からの 15 年間で 35 戸減少している。

このうち販売農家については兼業農家が 34 戸から 10 戸にまで減少している。一方で専業農家は 2009（平成 21）年から 2014（平成 26）年までで 17 戸を維持している。

耕地面積は、1996（平成 8）年の 63ha から 2016（平成 28）年には 56ha となり、7ha の減少が見られる。

農家数と耕地面積の推移



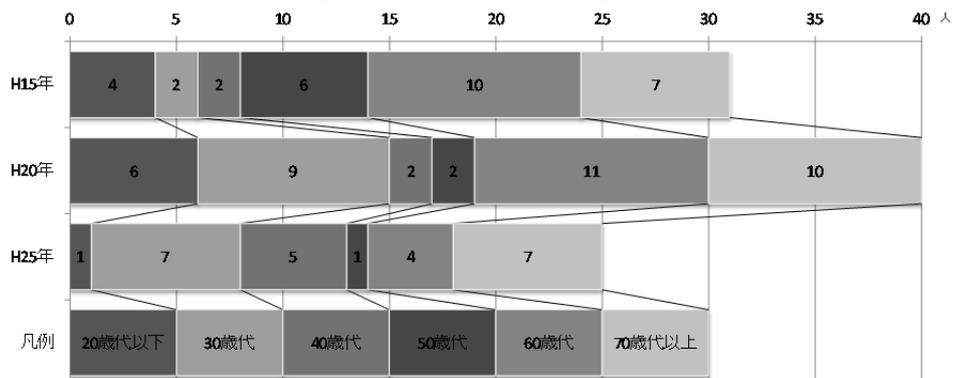
出典：農林業センサス

2013（平成 25）年には、漁業経営体は 22 経営体、そのほとんどが家族が従業員となっている。漁業の就業者数は、2003（平成 15）年～2008（平成 20）年にかけて増加し、その後、2008（平成 20）年から 2013（平成 25）年の間に 63%にまで縮小し、2013（平成 25）年には 25 人となっている。20 歳代以下と 50 歳代は各 1 名ずつとなっている。

漁業経営体数	22 経営体	海上作業従事者（家族）	20 人
船外機付漁船	5 隻	同上（雇用者）	3 人
動力隻数	23 隻	陸上作業従事者（家族）	20 人
（トン数）	94.6 トン	同上（雇用者）	1 人

出典：2013 年漁業センサス

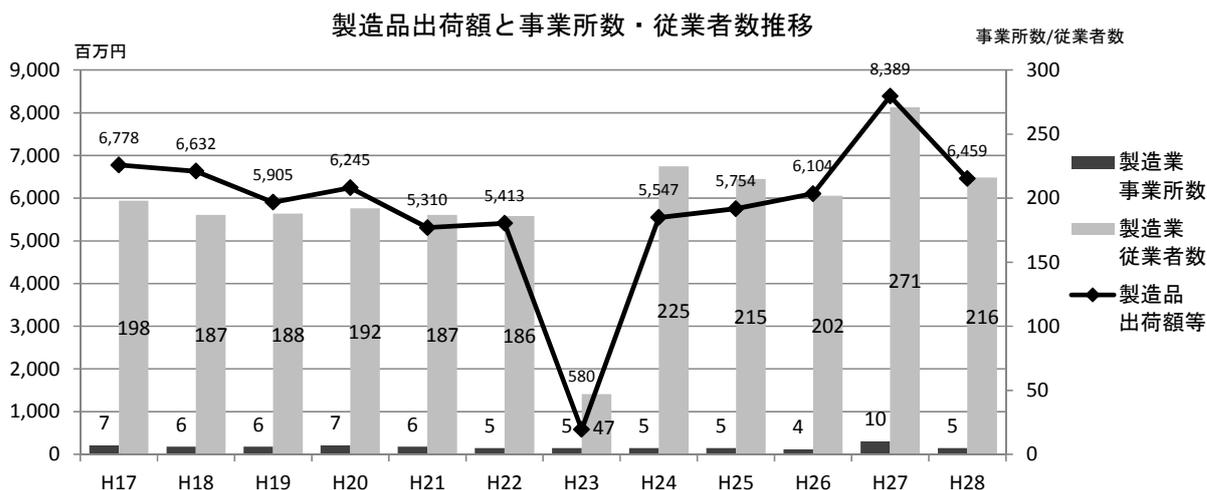
年齢階層別漁業就業者数推移



出典：2013 年漁業センサス

3) 製造業

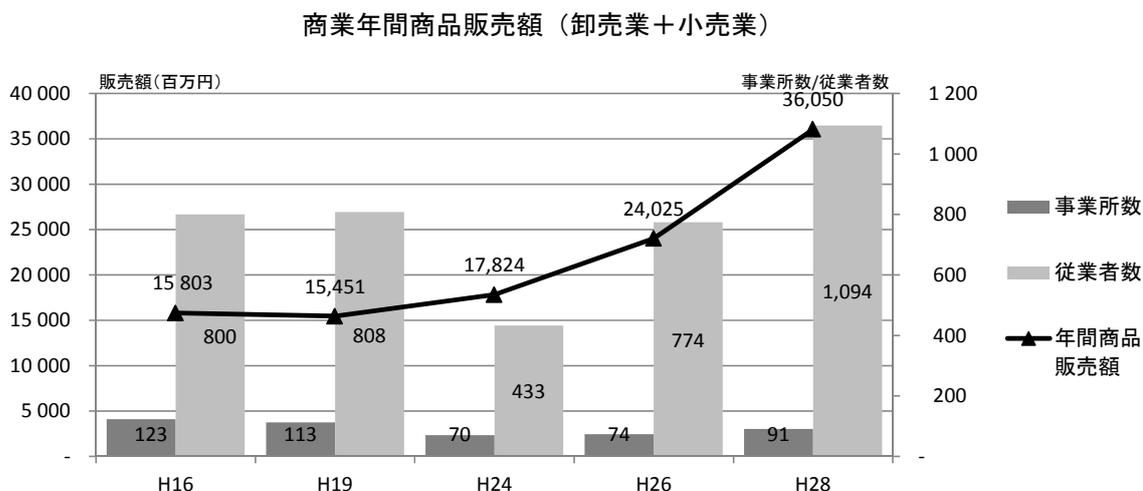
本町の製造品出荷額の推移は、東日本大震災が起きた 2011（平成 23）年には大幅に落ち込んだものの、近年では 2015（平成 27）年に 8,389 百万円となっている。



出典：工業統計調査（H24、H28 は経済センサスー活動調査）

4) 商業

本町の商業の年間販売額は、2012（平成 24）年以降、事業所数、従業者数、年間販売額ともに増加傾向が見られ、2016（平成 28）年には、年間商品販売額は 36,050 百万円となっている。



出典：商業統計調査（H23 経済センサスー活動調査）

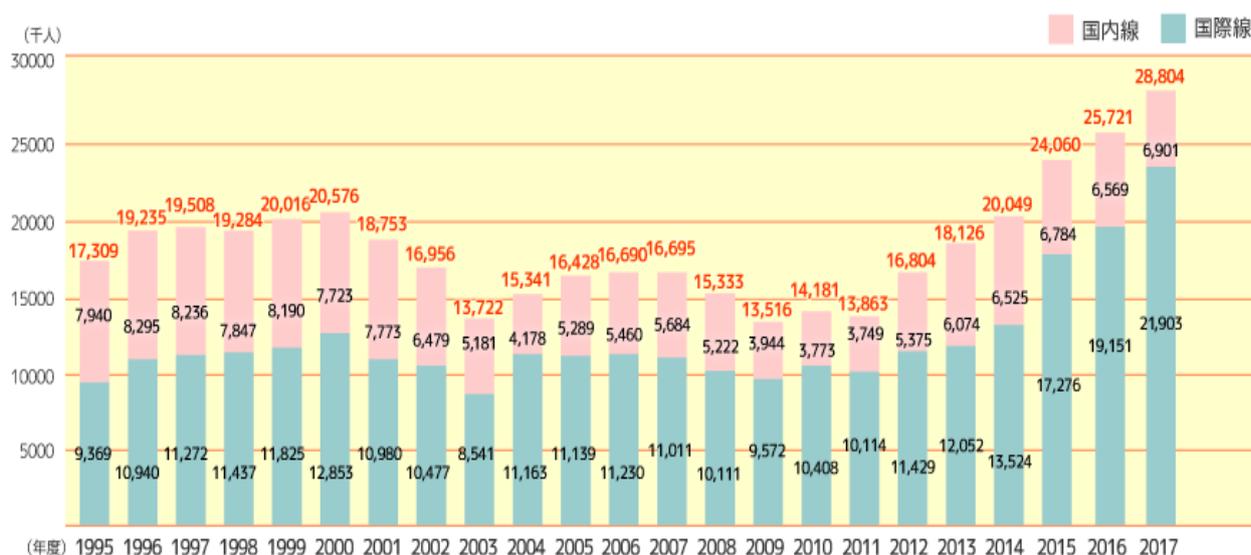
5)観光

町内には4軒のホテルがあり、民泊（住宅宿泊事業法に基づく届出住宅）は2019（平成31）年3月時点で1軒みられる。

関西国際空港の航空旅客数の推移は、2011（平成23）年以降増加しており、2017（平成29）年には28,804千人、特に国際線利用は2011（平成23）年の2倍に伸びている。

2019（平成31）年春には町内最大規模となるホテルが新設される。また、2020年東京オリンピック、2025年には日本万国博覧会（大阪・関西）が開催されることから、今後は町内の宿泊客数が増加することが予測される。

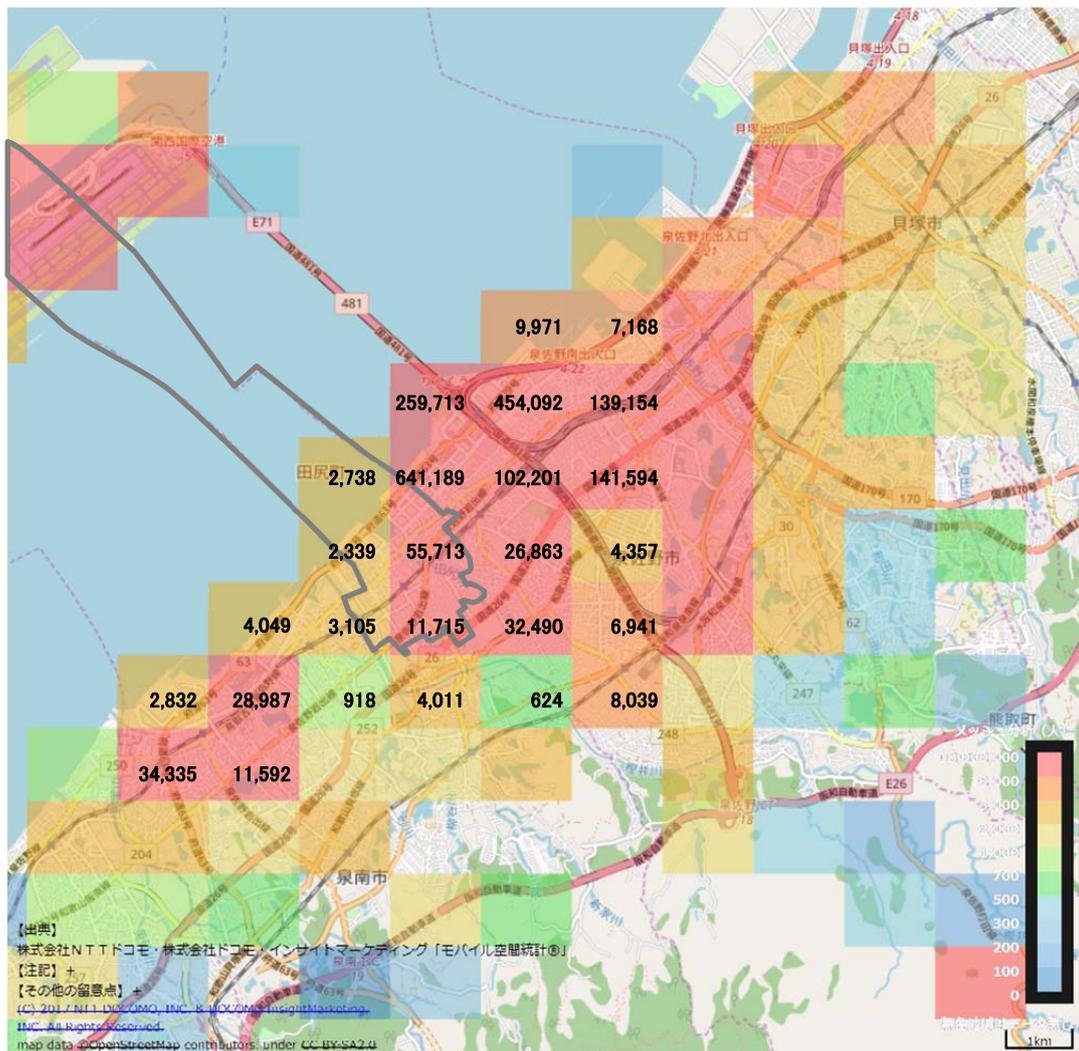
関西国際空港旅客数



出典：関西国際空港

外国人の滞在者数を示す図からは、りんくうエリアに外国人滞在者数が多い地区が集中しており、町内でも東部地区のメッシュでは年間 6 万人を超える外国人滞在者数が見られる。

RESAS「外国人メッシュ分析」1時間以上の外国人滞在者数
(2017(平成29)年8月~2018(平成30)年7月)



出典：モバイル空間統計（株式会社NTTドコモ・株式会社・インサートマーケティング）
指定地域内の1kmメッシュ単位で区切られた各地点の訪日外国人のうち、1時間以上そのメッシュの範囲に滞在した人数(滞在者数)を、ヒートマップで把握。

(5)住宅の状況

1)空家

空家等対策計画策定に伴い町が実施した調査（2018（平成30）年）によると、町内の空家は74戸、このうち住宅は59戸確認されている。

空家であることの調査結果

現地調査数	193戸	空家等
空家	74戸	○
小計	74戸	
居住中(使用中)	104戸	
不明・更地・解体中	15戸	
小計	119戸	

空家等と判断した建物の用途

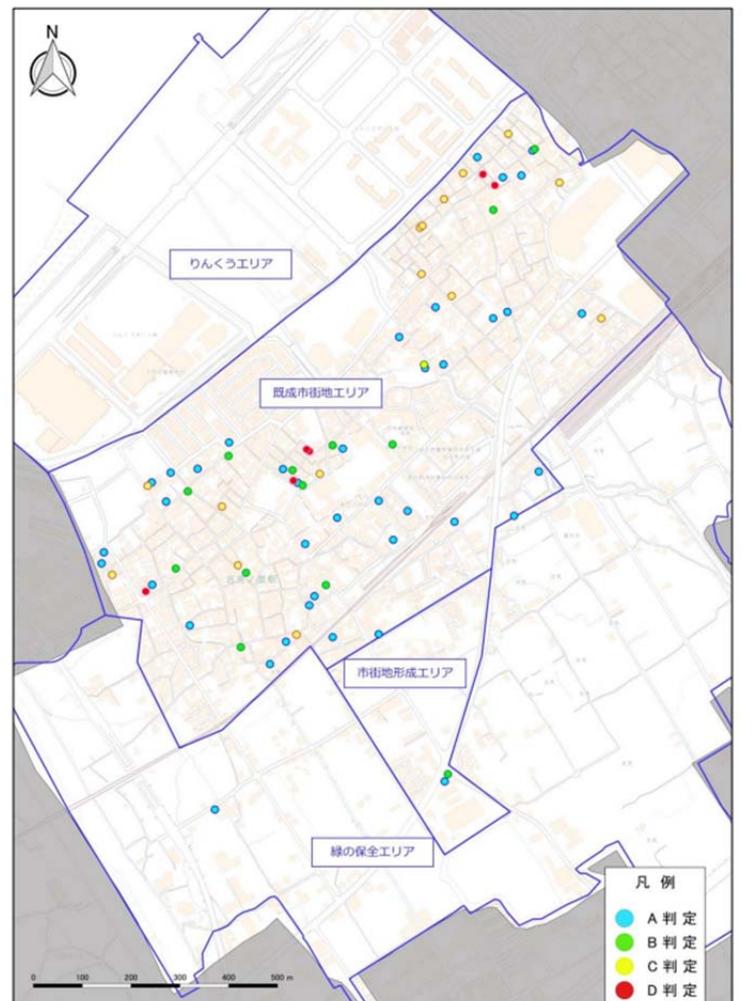
空家等数	74戸	基礎調査対象
住宅	59戸	○
併用住宅	6戸	○
車庫・倉庫	5戸	○
その他(店舗など)	4戸	○

危険度判定結果

判定	点数範囲	内容	戸数	割合
A判定	0≦T<20	危険性はない	39戸	52.7%
B判定	20≦T<50	当面の危険性はない	14戸	18.9%
C判定	50≦T<100	ただちに倒壊する恐れはないが、損傷が見られる	15戸	20.3%
D判定	100≦T	倒壊や資材の飛散等の危険が切迫し、緊急度が高い	6戸	8.1%
合計			74戸	100%

危険度判定結果の分布状況

これらの空家の危険度判定を行ったところ、6戸が「倒壊や資材の飛散等の危険が切迫し、緊急度が高い」、15戸が「ただちに倒壊する恐れはないが損傷が見られる」となっている。52.7%を占める39戸は「危険性がない」と判定されている。



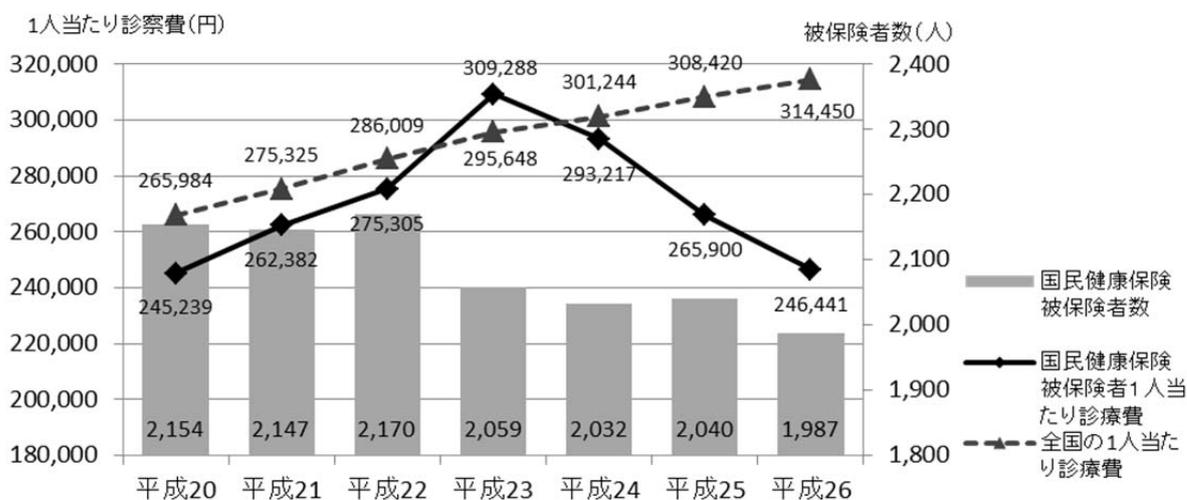
出典：田尻町空家等対策計画
2019（平成31）年3月

(6)医療・福祉分野の状況

1)医療

被保険者数は、減少傾向が続いている。国民健康保険一人あたり診療費は、2011（平成23）年の309,288円をピークに近年は減少しており、2014（平成26）年では246,441円となっている。全国と比較すると、全国では右肩上がりの傾向が続いており、2014（平成26）では、本町は全国平均よりも68,009円低くなっている。

国民健康保険一人あたり診療費と被保険者数の推移



出典：国民健康保険事業年報

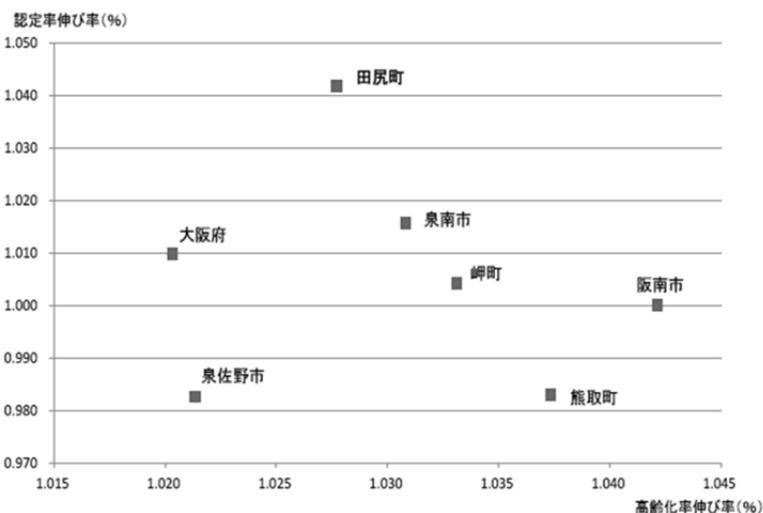
2)介護

高齢化率・要介護認定率の伸びの比較

(単位：%)

	大阪府	岬町	熊取町	阪南市	泉南市	泉佐野市	田尻町
高齢化率伸び率	1.020	1.033	1.037	1.042	1.031	1.021	1.028
認定率伸び率	1.010	1.004	0.983	1.000	1.016	0.983	1.042

2015（平成27）年～2016（平成28）年にかけての高齢化率と、要介護認定率の伸び率を近隣自治体と比較すると、本町の高齢化率の伸び率は泉佐野市を除く近隣市町と比べて低くなっているが、要介護認定率の伸び率は近隣市町の中でも高くなっている。



出典：第7期田尻町高齢者福祉計画及び介護保険事業計画（平成30-32年度）

※要介護認定率は地域包括ケア「見える化」システムより
 ※高齢化率は「大阪府推計人口」、「介護保険事業状況報告」を用いて算出

3. 第4次総合計画の進捗状況

第4次田尻町総合計画の進捗状況を検証した。現行計画における主な取組の成果と今後の施策課題を次にまとめた。

1)ひとが輝き、未来につながるまち 田尻

項目	主な取組成果	今後の課題
1. 人権尊重	○人権課題に対する新たな法整備を受けて周知・啓発事業を推進	新たな人権課題も含め、町の実情等を踏まえた啓発、情報提供の実施、相談体制の充実、セーフティネットの構築。
2. 国際化の推進	○保・幼・小・中において関西国際センターとの交流等を実施	町民と関西国際センターとの交流の活性化。
3. 次世代の育成	○子育てガイドブック作成・配布 ○保育所・幼稚園などの保育料等を無償化 ○町立幼稚園・子育て支援センターにおいて一時預かり事業開始 ○ファミリーサポートセンター事業を開始 ○こども医療費助成事業の対象者を18歳まで拡大	福祉相談窓口をワンストップ化するため、現在3つある子どもの窓口の一本化。
4. 学校教育	○田尻町版小・中一貫教育の推進 ○ALTの増員、英検受験への助成など国際理解教育、外国語学習の推進 ○保・幼・小・中におけるICT教育環境の構築	保幼も含めた小・中一貫教育の実践のための組織的な取組み。 教員の働き方改革も視野に入れた教育課題への取組みの重点化。
5. 生涯学習	○三世代交流促進講座など時代に即した生涯学習講座の開催	SNSなど多様なツールを活用した効果的な情報発信。 多様な年齢層による参加者の拡大、リーダー等人材の発掘・育成の仕組み作り。
6. 歴史・文化	○田尻歴史館（愛らんどハウス）の保全・活用に向け耐震化等の改修事業に着手	愛らんどハウスの保全とさらなる有効活用。

2)健やかで、安心して暮らせるまち 田尻

項目	主な取組成果	今後の課題
1. 健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○各種健診の充実（日曜健診、特定健診・がん検診の同日実施、胃内視鏡検査、妊婦健診等） ○医療体制の充実（広域母子医療センター運営、広域初期急病センター運営） 	<p>自らの健康の維持増進に向けた意識啓発、住民主体の健康づくり活動をサポートする保健事業の展開。</p> <p>健康に対する無関心層への保健事業の展開。</p>
2.地域・社会の支えあい	<ul style="list-style-type: none"> ○還暦のつどい等コミュニティイベントの開催 ○広報たじりへの各種団体情報掲載 ○ふれ愛センターの休日開館、フリースペースで集える場所を提供 ○介護支援サポーターの養成講座の実施 	<p>各種団体の高齢化、地区会加入率の低下などへの対応と新しい担い手の育成。</p> <p>ボランティア活動の場の拡充。</p>
3.高齢社会・障害福祉	<ul style="list-style-type: none"> ○介護予防事業の推進（体操・筋トレなど各種教室の開催、介護ポイント） ○田尻町独自の取組みとして、多職種連携会議「たじりっちねっと」を医師や介護職など他職種の連携、情報交換のネットワークとして実施 ○障害福祉の推進（基幹相談支援センター運営、町施設等のバリアフリー化） 	<p>要介護認定ではないが移動に困っている人や銀行やスーパー、病院など自分で行きたいところに行くための移動支援サービスの必要性。</p> <p>田尻町の介護、高齢者、障害者の相談窓口として基幹相談支援センターの設置。</p>

項目	主な取組成果	今後の課題
4. 安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ○消防広域化による消防・救急体制強化 ○自主防災会の育成・支援 ○防犯カメラ・防犯灯の増設 	<p>田尻町の実情に応じた自主防災組織の改編。災害時の連携について自主防災会と民間事業者も含めて連携を広げる体制づくり。</p> <p>活動する人が集まるよう地域の防犯活動組織の一本化。</p>
5. 住宅・住環境	<ul style="list-style-type: none"> ○三世帯同居近居新生活スタート助成事業 ○公営住宅の適正な維持管理、計画的に長寿命化 	<p>空家対策などへの取組み。</p>

3)資源が活かされ、魅力あるまち 田尻

項目	主な取組成果	今後の課題
1.自然・環境保全	<ul style="list-style-type: none"> ○農業委員の協力のもと、小学校・幼稚園の田植え・稲刈り体験を実施 ○りんくうポート北広場の計画や、田尻町ウォーキングコース（散策ルート）整備計画のための住民ワークショップ開催（平成29年度） 	<p>市町村単独ではなく周辺市町村と広域共同での地球温暖化対策地域編計画策定など取組みの検討。</p>
2. 都市整備	<ul style="list-style-type: none"> ○吉見ノ里駅周辺整備（踏切拡幅） ○（仮称）りんくうポート北広場の整備計画 ○コミュニティバスの運行（2019年5月予定） ○国土調査（地籍調査）の推進（事業終了） 	<p>利便性のある道路整備の検討。</p> <p>吉見ノ里駅のバリアフリー化ほか利便性の向上。</p>

項目	主な取組成果	今後の課題
3. 生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ○上水道事業の広域化（大阪広域水道企業団への統合） ○下水道ポンプ場の耐震化・長寿命化 ○有料化及び廃プラの分別回収によるごみの減量化 ○吉見墓地を拡充（平成 27 年度） 	<p>ストックマネジメント計画に基づく下水道施設の適正な維持管理及び改築・更新。</p> <p>ごみ処理体制の広域化。</p>
4. 情報・通信	<ul style="list-style-type: none"> ○基幹系システム、庁内ネットワークシステム、インターネット端末におけるセキュリティ強化 	<p>情報化の推進と継続的なセキュリティの向上。</p> <p>多言語化および視覚障害などアクセシビリティへの対応。</p>
5. 産業振興	<ul style="list-style-type: none"> ○観光漁業推進への支援 ○泉州黄たまねぎの普及促進 ○りんくうポート地区における企業誘致の推進 ○観光促進策として関空島内連絡バスにラッピング広告を実施 ○DMO（KIX 泉州ツーリズムビューロー）への参画 	<p>農地の有効活用と担い手の育成。</p> <p>関空利用の外国人観光客などインバウンドへの対応。</p>

4)みんなでまちづくりを進めるために

項目	主な取組成果	今後の課題
1.参画と協働のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○公園や児童遊園、駐輪場などで、住民団体が花植えボランティアとして花の管理 ○りんくうポート北広場整備について、住民ワークショップにより基本計画の策定 	SNS等広報媒体の多様化に対応した情報発信の充実 各種団体のネットワーク強化
2. 行財政運営	<ul style="list-style-type: none"> ○定員管理計画策定、公共施設等総合管理計画の策定 	公共施設等の適正な維持管理、計画的な改修や更新の検討。
3. 広域連携	<ul style="list-style-type: none"> ○広域福祉課設置（H25.4.1～泉佐野市に事務所） ○広域まちづくり課設置（H29.10.1～泉南市に事務所） ○一部事務組合の再編（ごみ、し尿） 	効果的な広域行政の推進

4. 住民の意識

(1) 住民意識調査

次期総合計画策定のための基礎調査として、住民意識調査を実施した。

① 調査対象

町在住の16歳以上の住民2,500人

住民基本台帳より無作為抽出（ただし警察学校と関西国際センターは除く）

② 調査方法

郵送による配布、回収

③ 回収状況

配布総数：2,500通（内7通未到達）

有効回答数：777通

回収率：31.2%（未到達分除く）

④ 調査期間

平成30年10月10日～10月29日

1) 回答者の属性

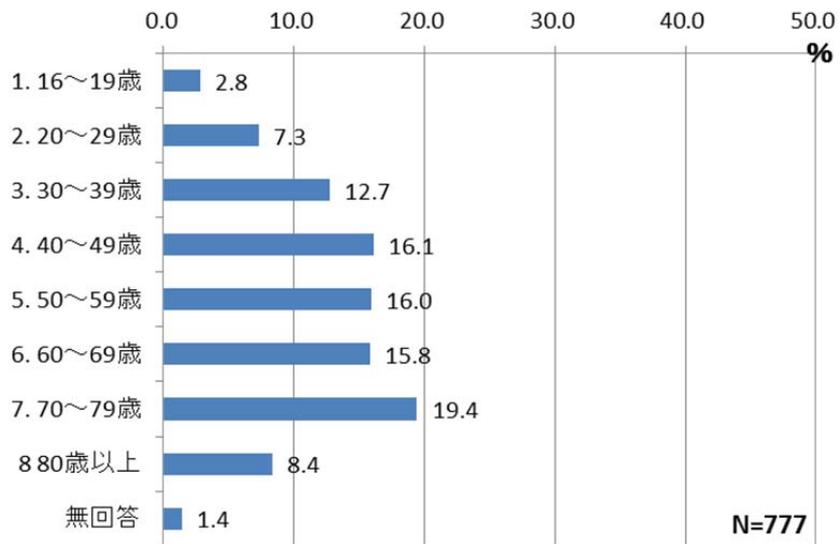
回答者の年齢比率は、10歳代、20歳代の比率がやや低く、60歳代、70歳代の比率がやや高くなっているが、住民基本台帳人口の年齢比率を概ね反映している。

回答者の男女比は、女性がやや高くなっている。

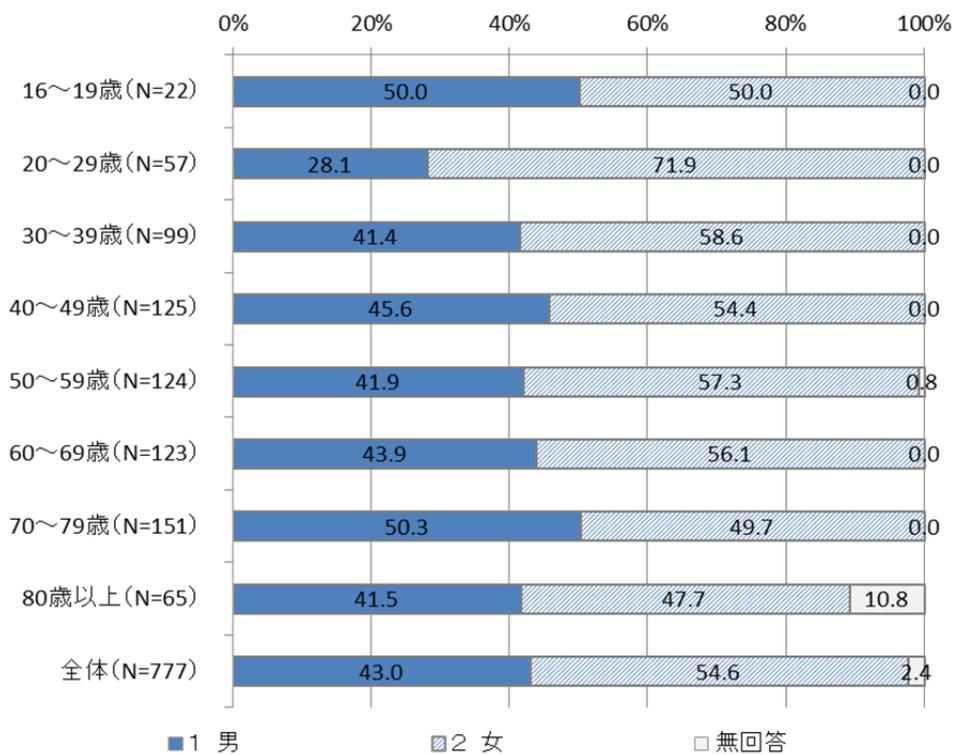
	件数	%	住民基本台帳人口*	%
1. 16～19歳	22	2.8	543	7.4
2. 20～29歳	57	7.3	1,133	15.4
3. 30～39歳	99	12.7	945	12.9
4. 40～49歳	125	16.1	1,383	18.8
5. 50～59歳	124	16.0	969	13.2
6. 60～69歳	123	15.8	834	11.3
7. 70～79歳	151	19.4	910	12.4
8. 80歳以上	65	8.4	635	8.6
無回答	11	1.4	-	-
計	777	100.0	7,352	100.0

*平成30年9月30日現在

回答者の年齢層



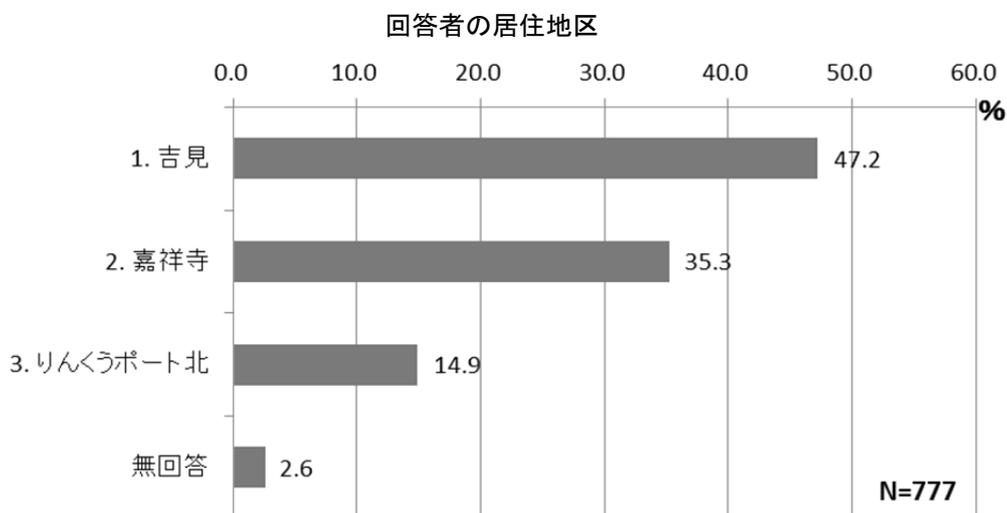
年齢層別_回答者の性別



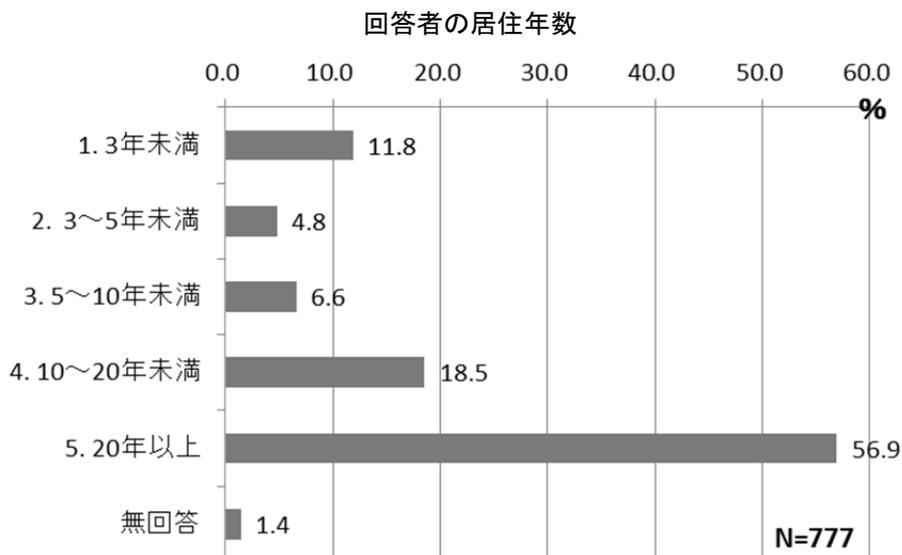
回答者の居住地区は、りんくうポート北地区の比率がやや低く、吉見地区の比率がやや高くなっているが、住民基本台帳人口の比率を概ね反映している。

	件数	%	住民基本台帳人口*	%
1. 吉見	367	47.2	3,751	44.8
2. 嘉祥寺	274	35.3	3,057	36.5
3. りんくうポート北	116	14.9	1,560	18.6
無回答	20	2.6	-	-
計	777	100.0	8,368	100.0

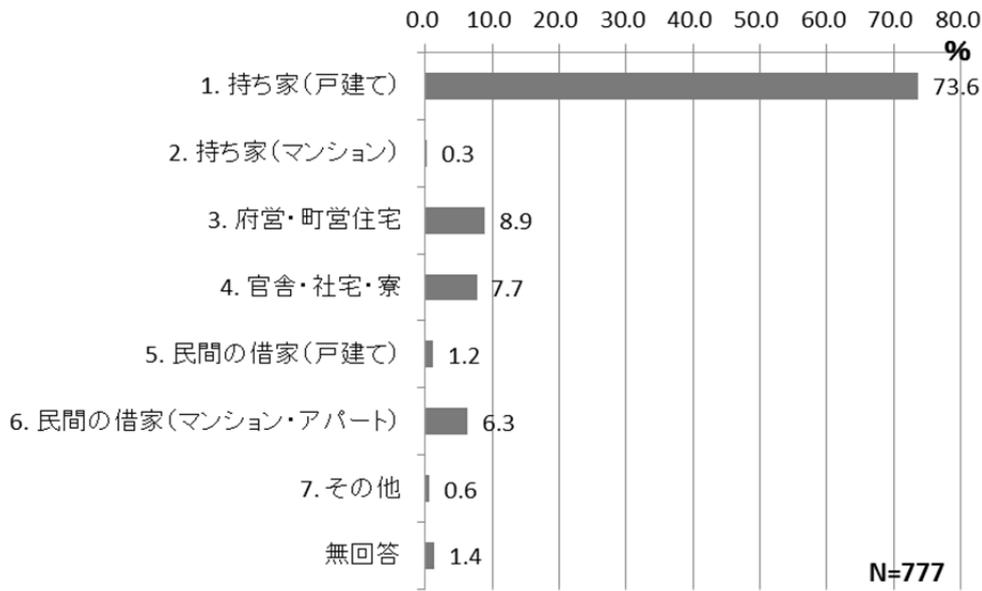
平成 30 年 9 月 30 日現在



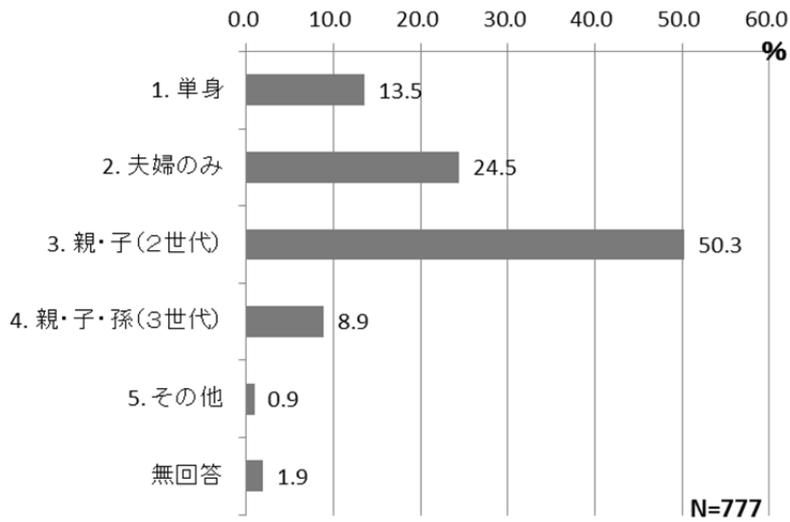
回答者の居住年数は、「20年以上」が5割以上で多数だった。
住居の種類は、「持ち家（戸建て）」が7割以上で多数だった。
家族構成は、「親・子（2世代）」が5割で多数だった。



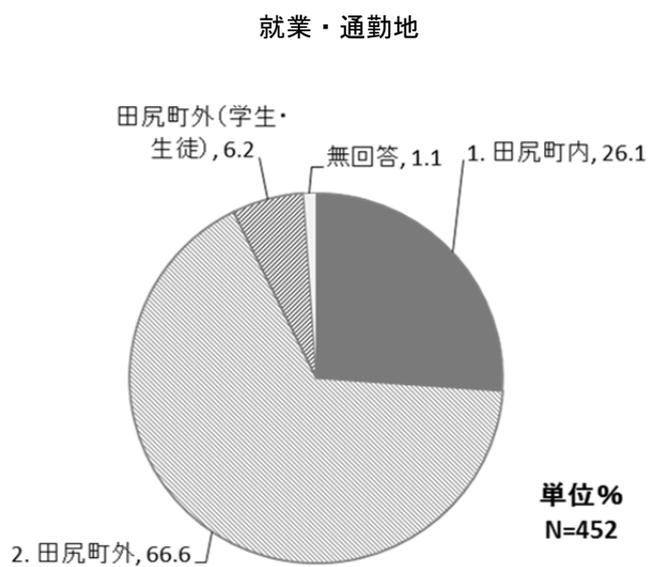
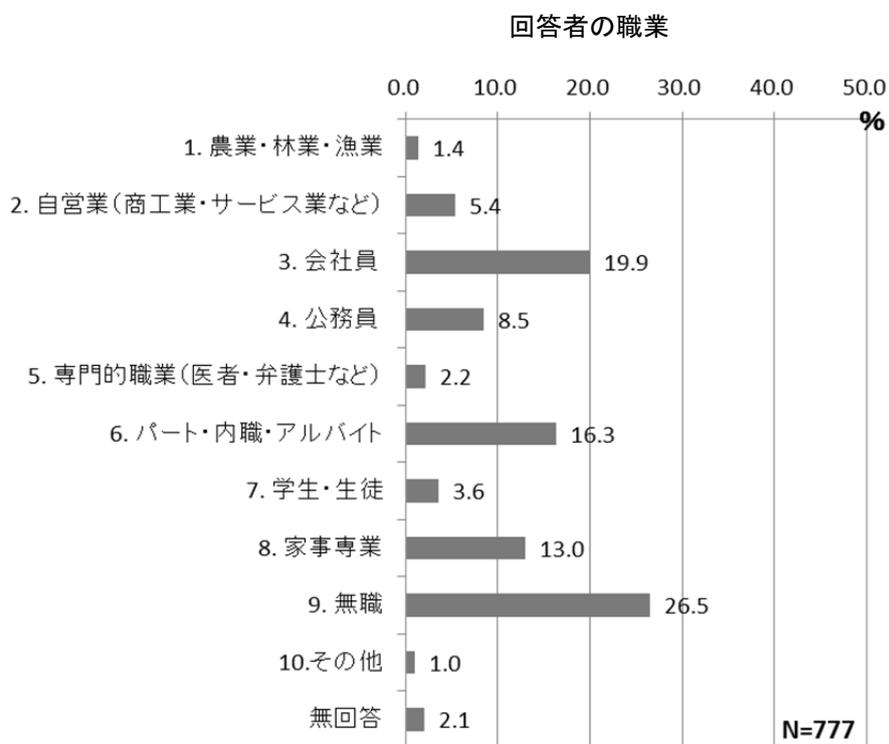
回答者の住居の種類



回答者の家族構成



回答者の職業は、「無職」「会社員」が、それぞれ約 2 割だった。
 就業・通勤地は、田尻町内が 4 分の 1 となっている。

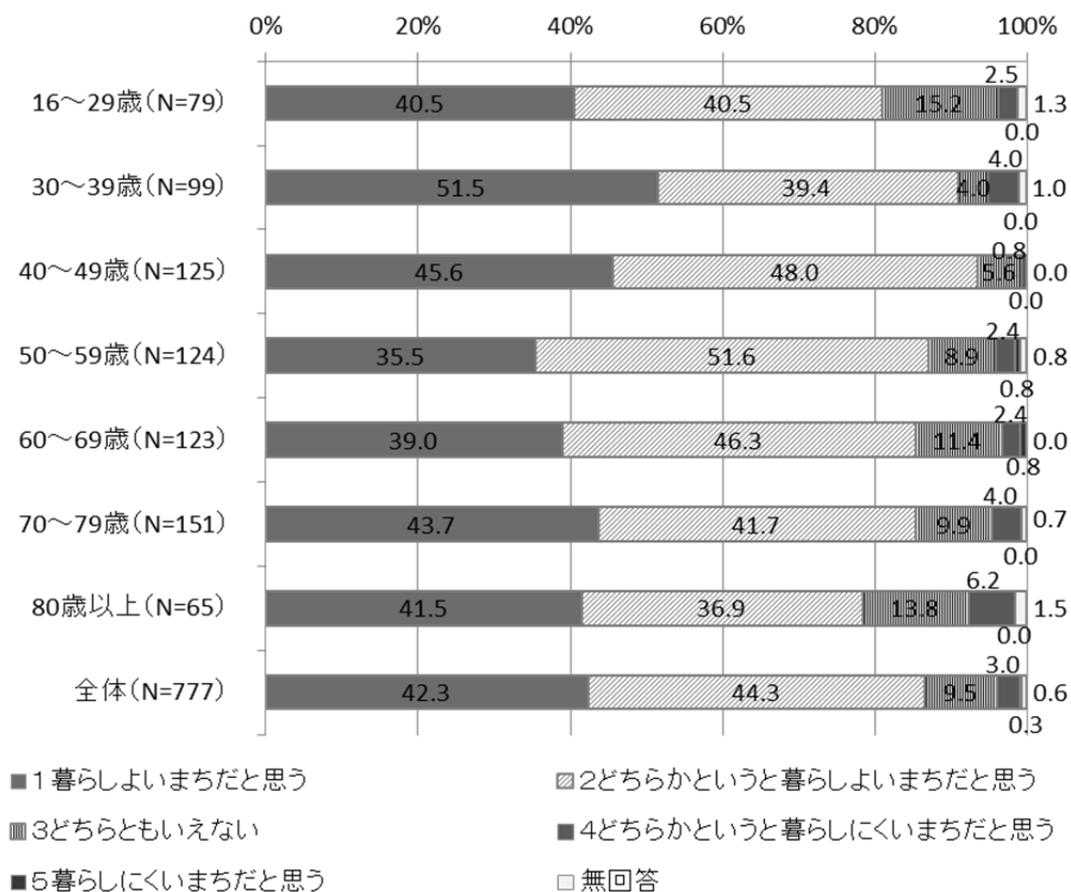


2)田尻町の暮らしやすさ

回答者全体では「どちらかという暮らしよいまちだと思う」「暮らしよいまちだと思う」がそれぞれ4割以上で、これを合わせると87%が田尻町を暮らしやすいと回答している。

年代別では、「暮らしよいまちだと思う」の割合は、30歳～39歳代が51.5%で全体に比べて高く、50～59歳代は35.5%で低くなっている。

年齢層別_田尻町の暮らしやすさ



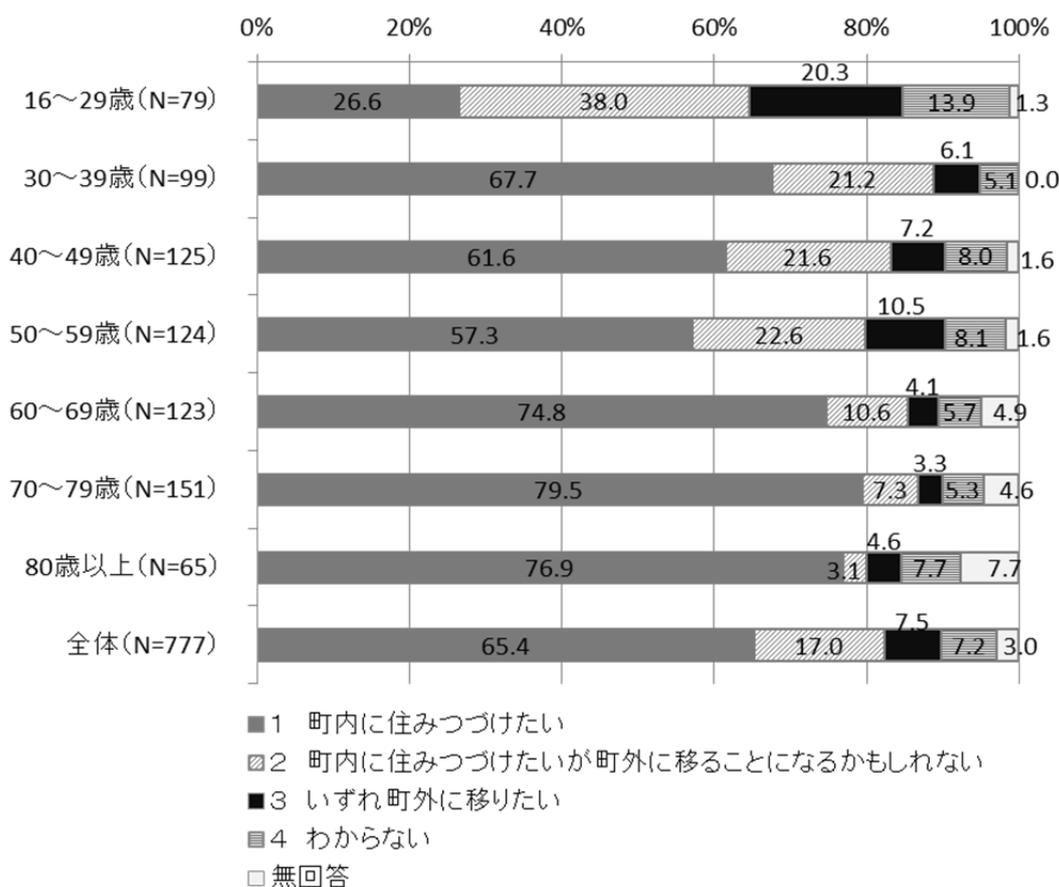
3)今後の定住意向

回答者全体では「町内に住みつづけたい」が65%で多数だった。

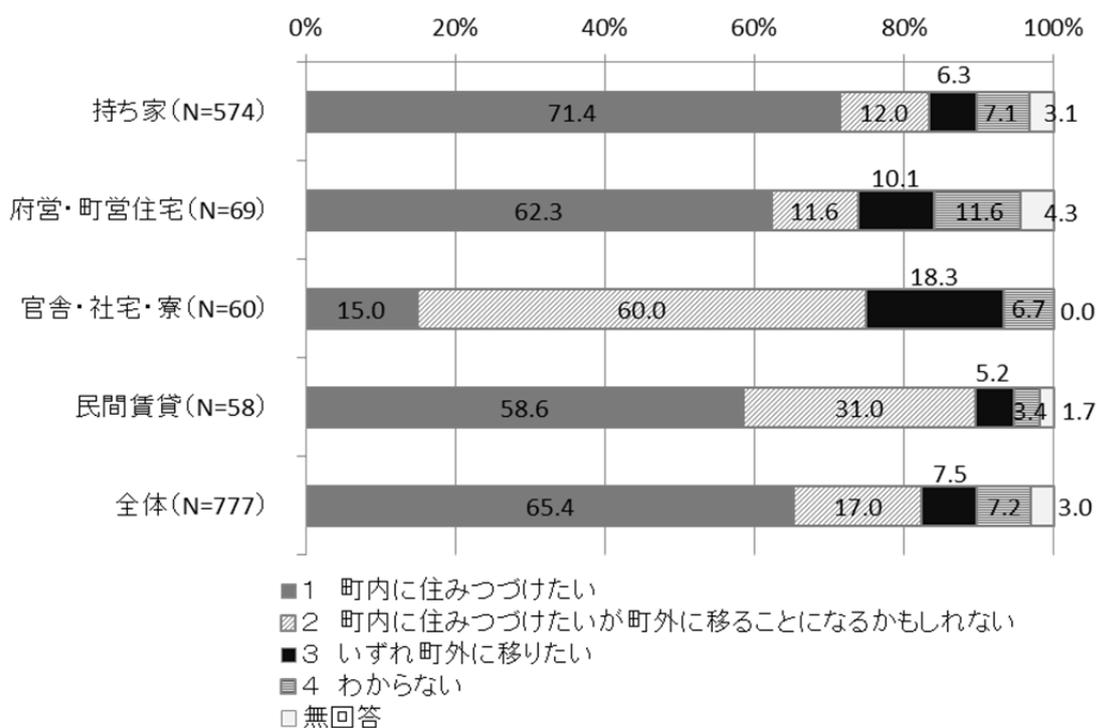
年代別では、16～29歳代は他の年代と異なり「町内に住みつづけたいが町外に移ることになるかもしれない」(38.0%)が最も多く、次いで「町内に住みつづけたい」(26.6%)「いずれ町外に移りたい」(20.3%)となっている。30～39歳代では「町内に住みつづけたい」(67.7%)が多数となるが、50～59歳代では「町内に住みつづけたい」(57.3%)はやや割合が低くなり「いずれ町外に移りたい」(10.5%)の割合が増えている。60～69歳代では「町内に住みつづけたい」(74.8%)の割合がさらに高くなっている。

住居の種類別では、持ち家が「町内に住みつづけたい」(71.4%)の割合が最も高いが、府営・町営住宅(62.3%)、民間賃貸(58.6%)でも定住意向は高い。

年齢層別_定住意向「これからも田尻町に住みつづけたいと思いますか」

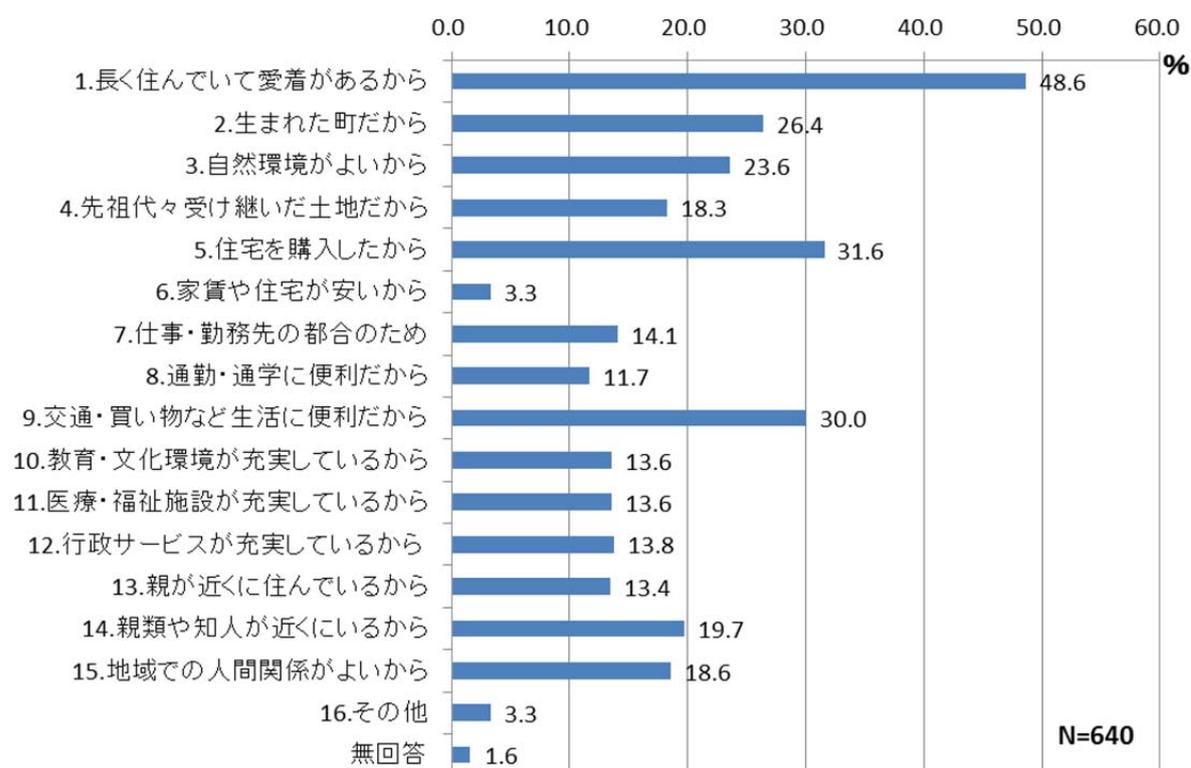


住居種類別_定住意向「これからも田尻町に住みつづけたいと思いますか」



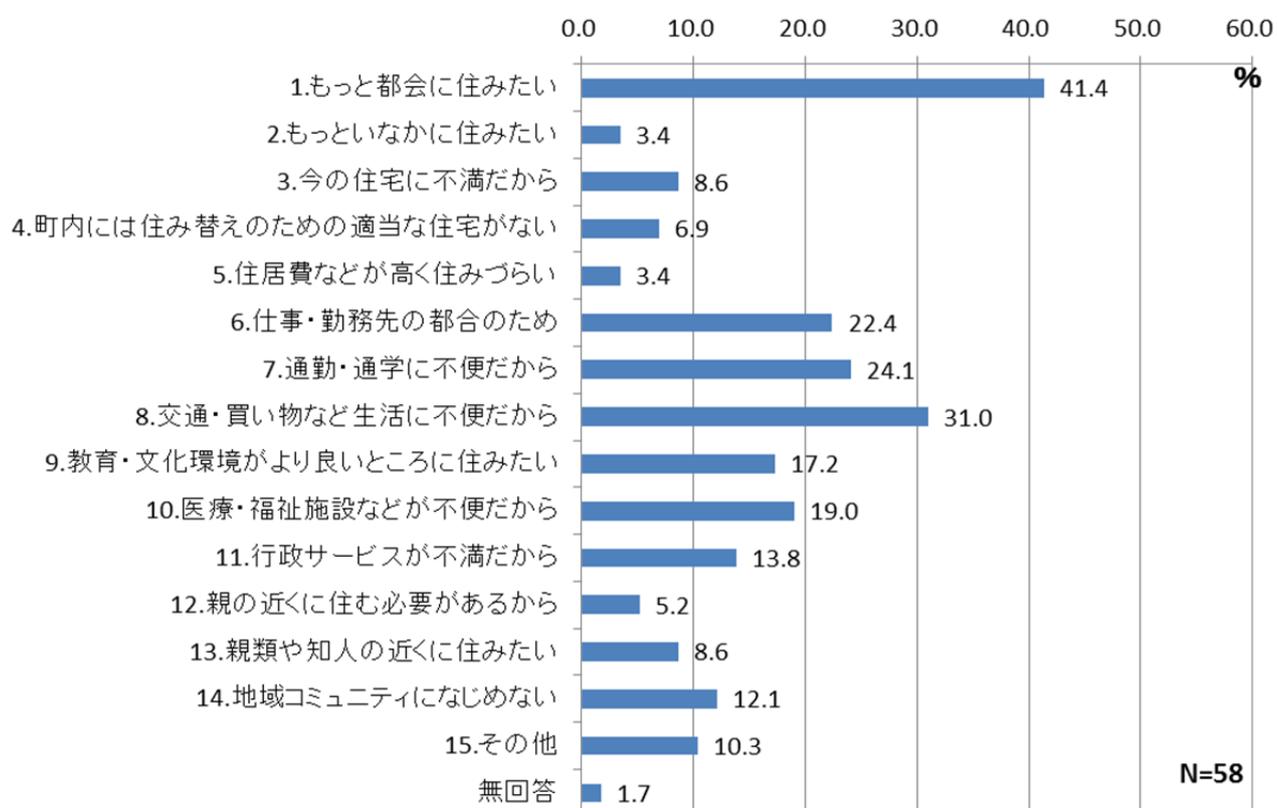
「町内に住みつづけたい」「町内に住みつづけたいが町外に移ることになるかもしれない」と回答した人が、田尻町に住みつづけたい理由は「長く住んでいて愛着があるから」が回答者の5割近くで最も多く、次いで「住宅を購入したから」「交通・買い物など生活に便利だから」がそれぞれ3割で多かった。

住みつづけたい理由「あなたがこのまちに住みつづけたい理由は何ですか」（複数回答）



「いずれ町外に移りたい」と回答した人が、外へ移りたい理由は「もっと都会に住みたい」が回答者の4割で最も多く、次いで「交通・買い物など生活に不便だから」が3割、「通勤・通学に不便だから」「仕事・勤務先の都合のため」がそれぞれ2割以上であった。

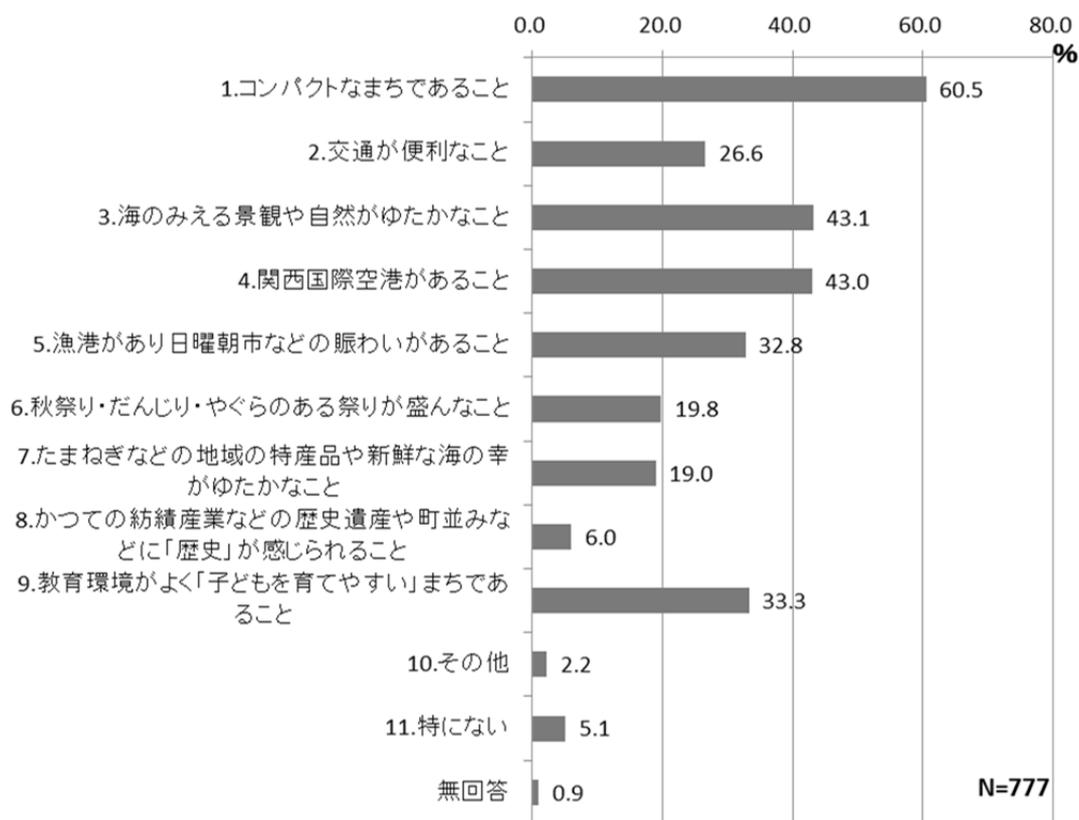
外へ移りたい理由「あなたがこのまちから外へ移りたい理由は何ですか」（複数回答）



4)田尻町の良いところ

田尻町の良いところは、「コンパクトなまちであること」が回答者の6割で最も多く、次いで「海のみえる景観や自然がゆたかなこと」「関西国際空港があること」がそれぞれ4割以上、「教育環境がよく「子どもを育てやすい」まちであること」「漁港があり日曜朝市などの賑わいがあること」が3割以上で回答が多くなっている。

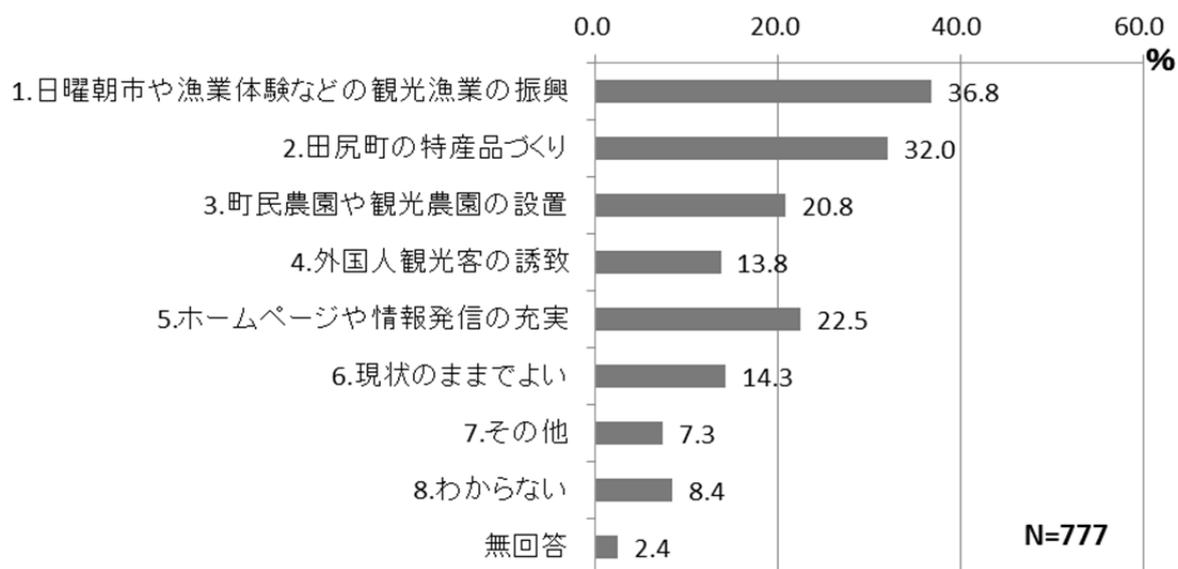
田尻町の良いところ（複数回答）



5)田尻町を元気ある町にするための産業・観光振興

田尻町を元気ある町にするための産業・観光振興については、「日曜朝市や漁業体験などの観光漁業の振興」「田尻町の特産品づくり」がそれぞれ3割以上となっている。

田尻町を元気ある町にするための産業・観光振興について（複数回答）



6)田尻町の魅力的な観光資源

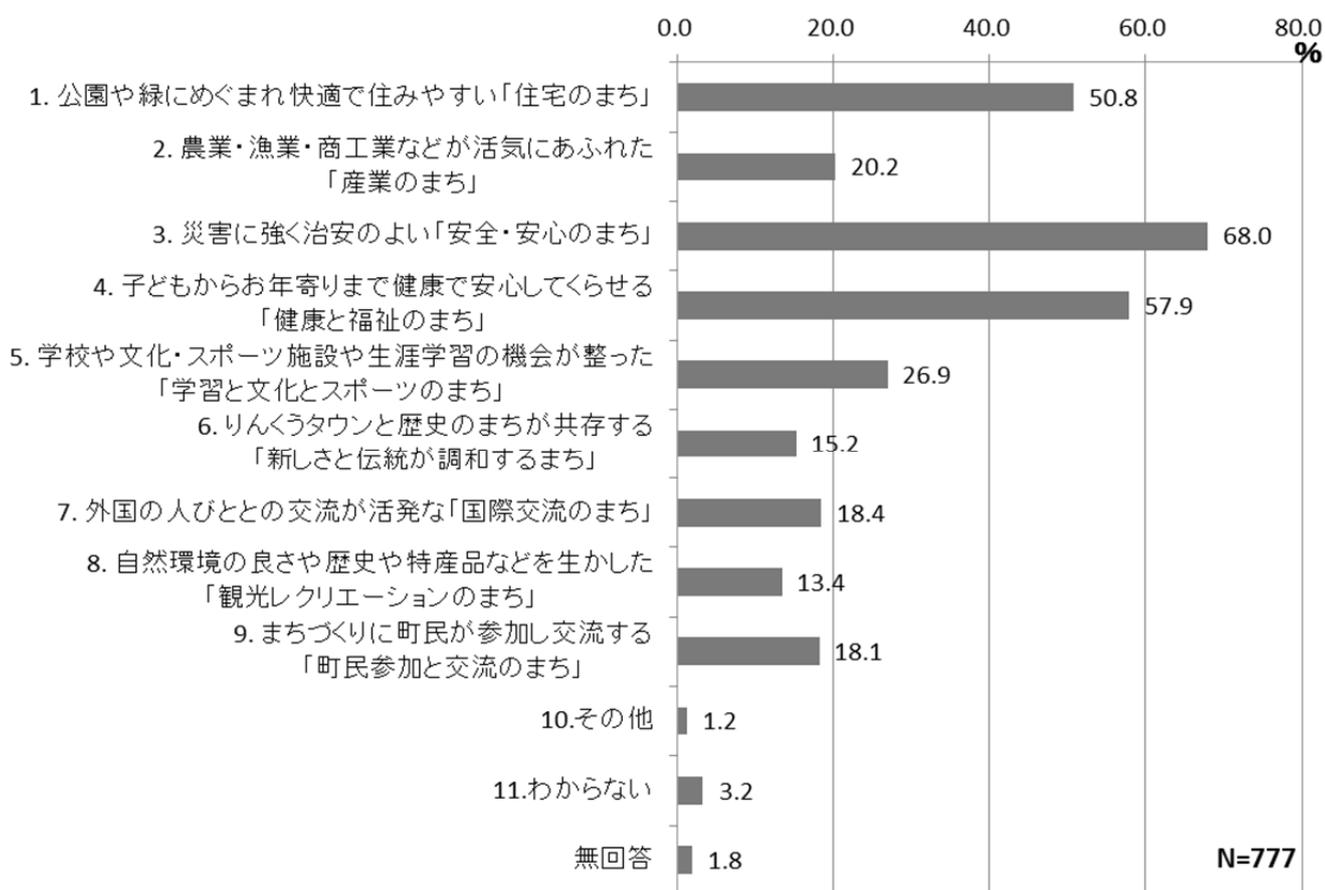
田尻町の魅力的な観光資源として最も多かったのは「日曜朝市」で、記述回答者の45%があげている。次いで多かった回答は「特にない」「田尻歴史館」「秋祭り・祭り」「関西国際空港」「海・海岸・自然」「田尻漁港・ヨットハーバー」「マーブルビーチ」などの記述だった。

項目	件数
日曜朝市	201
関西国際空港	33
田尻漁港・ヨットハーバー	26
漁業体験	12
釣り・海上釣堀	7
りんくうタウン(アウトレット・国際交流センター・警察学校)	12
マーブルビーチ	26
スカイブリッジ	9
海・海岸・自然	33
夕陽	6
田尻歴史館	53
秋祭り・祭り	49
だんじり、やぐら	19
春日神社・嘉祥寺神社	4
歴史を感じる街並み・街道	4
特産品・食べ物(黄玉ねぎ・水なす・海産物)	17
特にない	54
その他	44
記述回答者数	445

7)田尻町の将来像

田尻町が将来どのような町になればよいと思いますかとの問いでは、「災害に強く治安のよい「安全・安心のまち」が7割近くで最も多く、「子どもからお年寄りまで健康で安心してらせる「健康と福祉のまち」「公園や緑にめぐまれ快適で住みやすい「住宅のまち」がそれぞれ5割以上の回答者からあげられており多かった。

田尻町の将来像（複数回答）

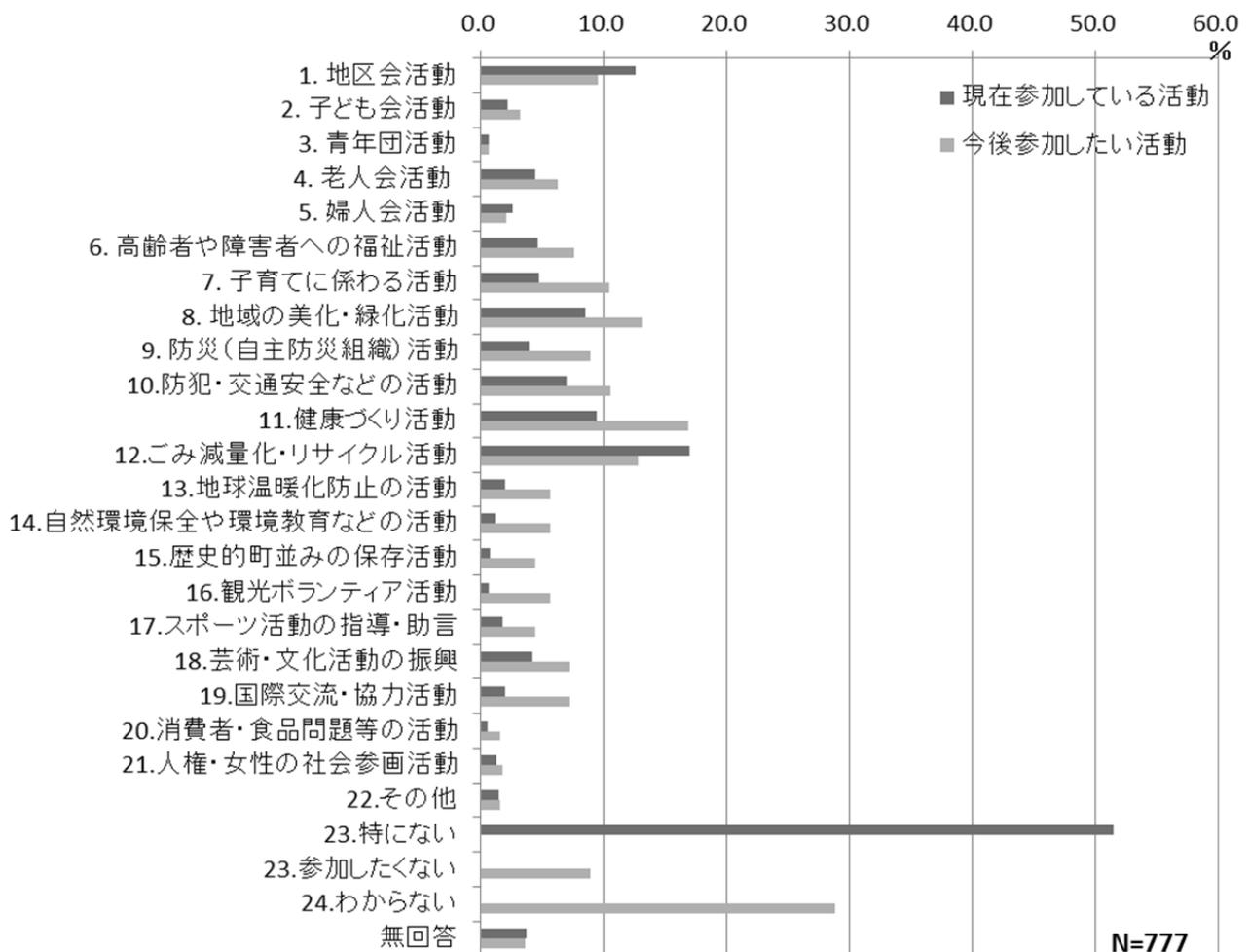


8)町民参加のまちづくり

まちや地域をよりよくするために、現在参加している活動は「特にない」が5割で最も多く、「ごみ減量化・リサイクル活動」「地区会活動」がそれぞれ1割となっている。

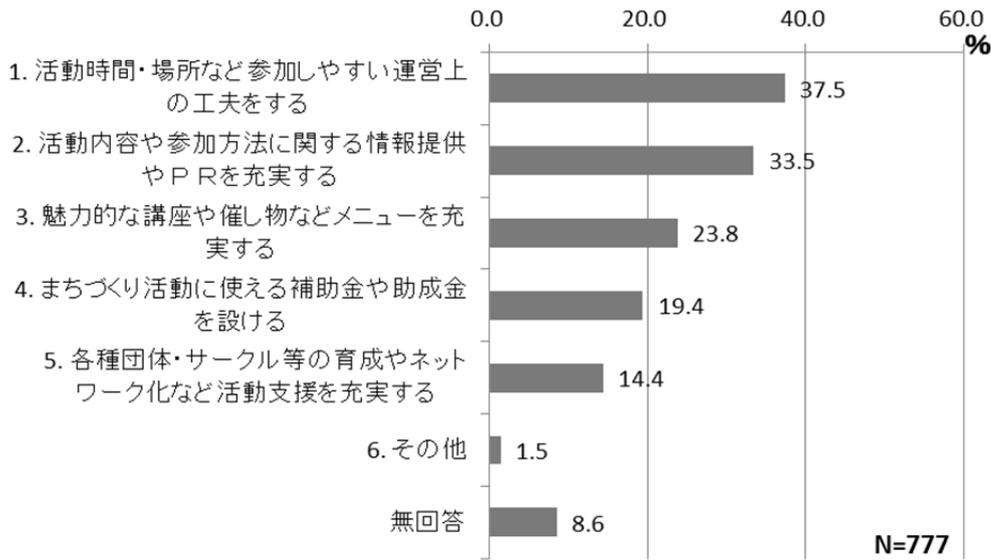
今後参加していきたい活動については「わからない」が3割近くで最も多くなっているが、「健康づくり活動」「地域の美化・緑化活動」「防犯・交通安全などの活動」「子育てに係わる活動」のほか多くの項目で、現在の参加よりも回答率が高くなっている。

まちや地域をよりよくするための活動への参加（複数回答）



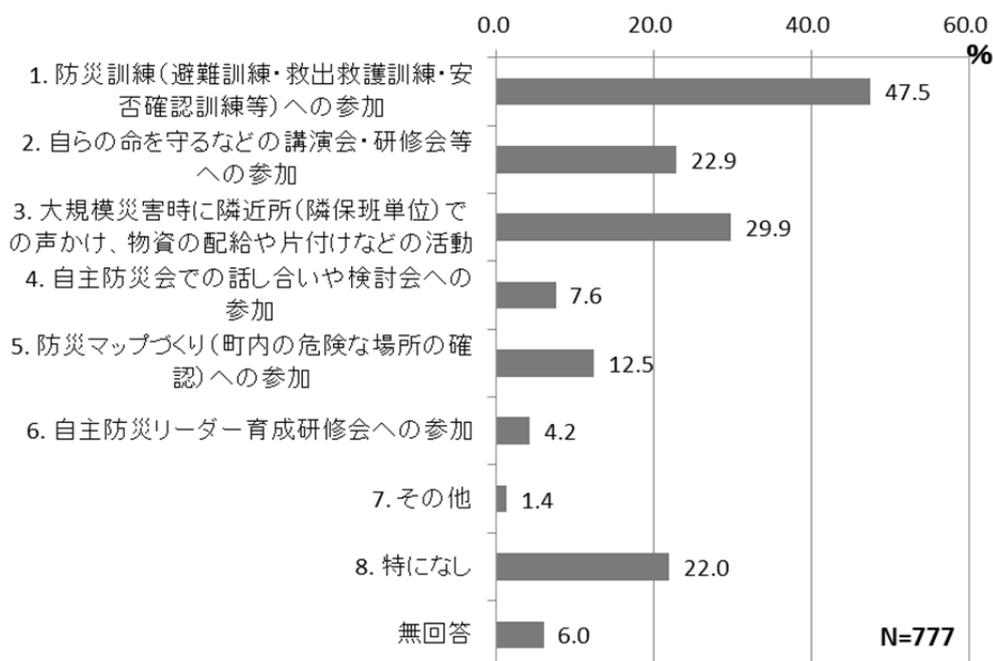
町民参加のまちづくりの活性化方策としては、「活動時間・場所など参加しやすい運営上の工夫をする」「活動内容や参加方法に関する情報提供やPRを充実する」がそれぞれ3割以上で多く、「魅力的な講座や催し物などメニューを充実する」は2割以上の回答者があげていた。

町民参加のまちづくりの活性化方策（複数回答）



参加できる自主防災活動として「防災訓練（避難訓練・救出救護訓練・安否確認訓練等）への参加」が5割近くで最も多く、「大規模災害時に隣近所（隣保班単位）での声かけ、物資の配給や片付けなどの活動」が3割近く、「自らの命を守るなどの講演会・研修会等への参加」は2割以上の回答者があげていた。

参加できる自主防災活動（複数回答）



9)行政が優先して取り組むべき重要な内容

これからのまちづくりをすすめるにあたって行政が優先して取り組むべき重要な内容についての回答結果から、取組みの今後の重要度を次のようにスケール化した。

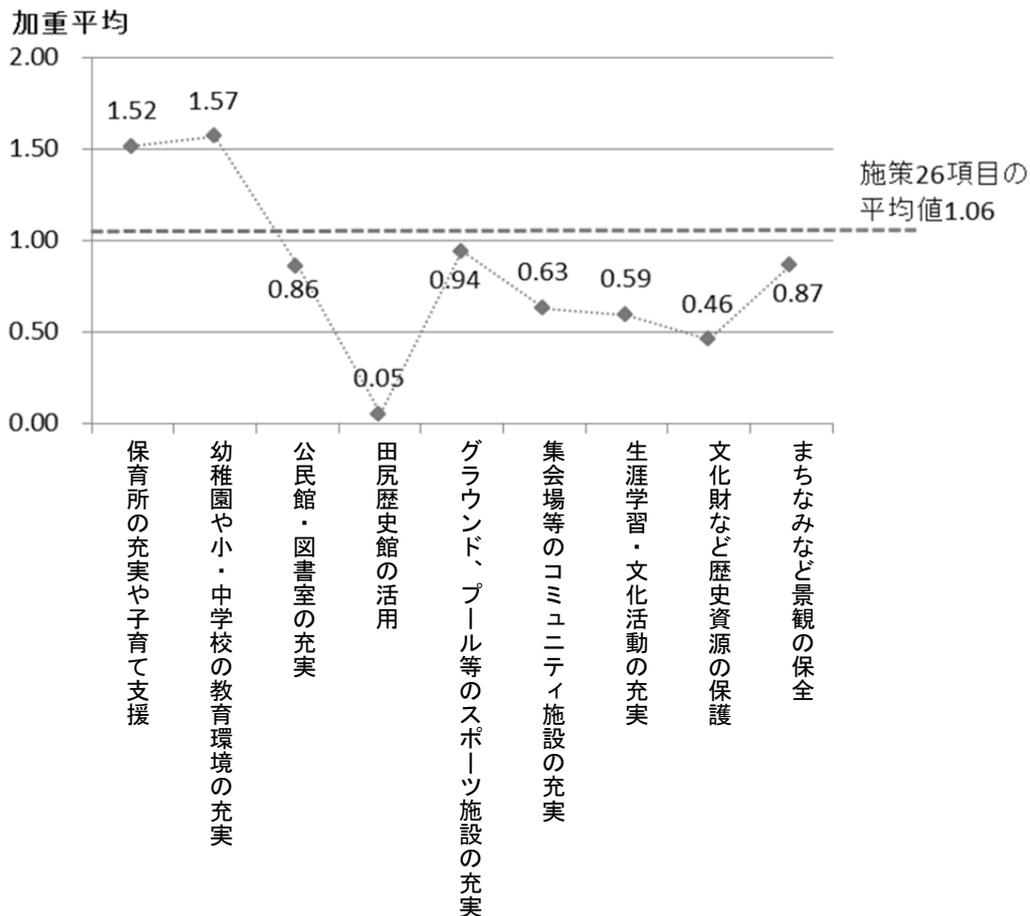
施策 26 項目の平均値は 1.06 だった。

計算式 (加重平均)

$$\begin{aligned} \text{今後の重要度} = & \{ (\text{「とても重要」の回答数} \times 2) + (\text{「やや重要」の回答数} \times 1) \\ & + (\text{「あまり重要でない」の回答数} \times -1) \\ & + (\text{「重要でない」の回答数} \times -2) \} \\ & \div \text{「無回答を除く回答数」} \end{aligned}$$

子ども・教育・文化の分野で行政が優先して取り組むべき重要な内容としては、「幼稚園や小・中学校の教育環境の充実」「保育所の充実や子育て支援」の重要度スコアが高かった。

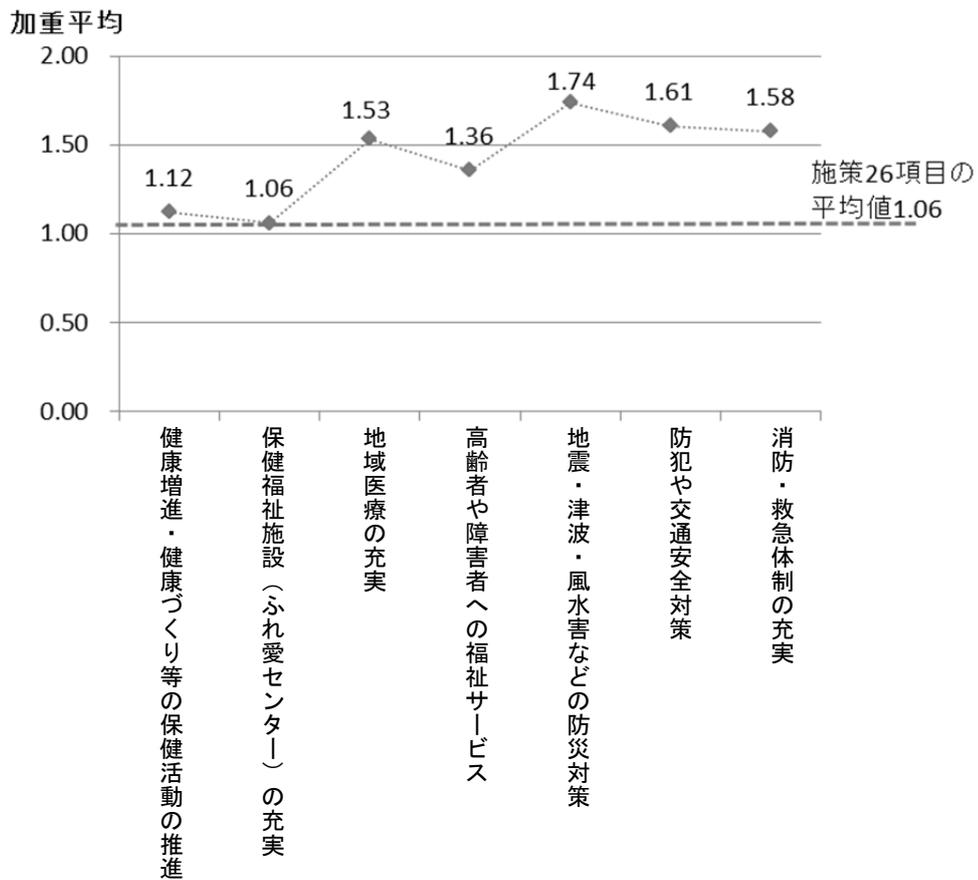
行政が優先して取り組むべき重要な内容：こども・教育・文化



健康・福祉に関する施策では、「地域医療の充実」「高齢者や障害者への福祉サービス」の重要度スコアが高かった。

安心・安全に関する施策は、いずれも重要度スコアが高かった。特に「地震・津波・風水害などの防災対策」の重要度スコアは施策 26 項目中で最も高かった。

行政が優先して取り組むべき重要な内容：健康・福祉／安心・安全

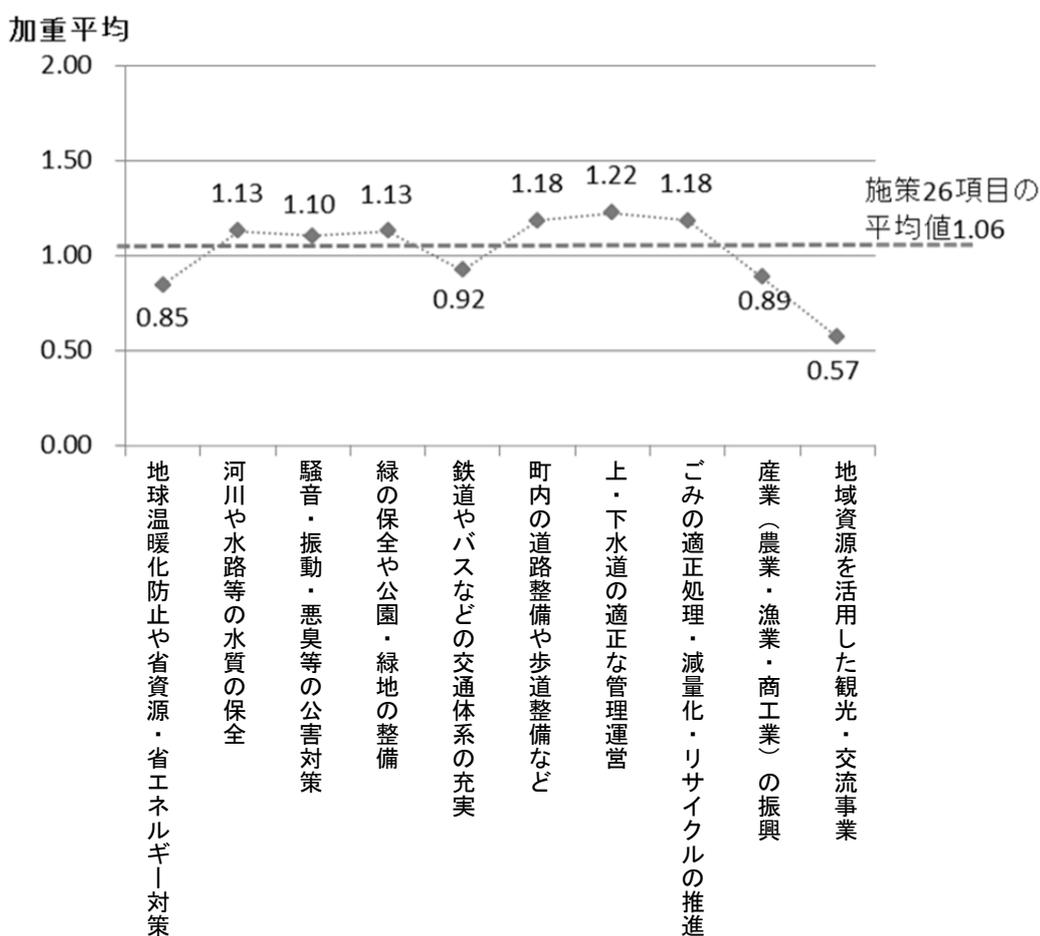


環境保全の施策については、「河川や水路等の水質の保全」「騒音・振動・悪臭等の公害対策」「緑の保全や公園・緑地の整備」の重要度スコアが、施策 26 項目平均値 1.06 より高かった。

都市整備の施策については、「町内の道路整備や歩道整備など」「上・下水道の適正な管理運営」「ごみの適正処理・減量化・リサイクルの推進」の重要度スコアが、施策 26 項目平均値より高かった。

産業の施策 2 項目は、いずれも施策 26 項目平均値より低かった。

行政が優先して取り組むべき重要な内容：環境保全／都市整備／産業



10)田尻町のまちづくりに関する自由意見

全回答者 777 人のうち、何らかの自由記述があったのは 287 人だった。この自由記述の内容を整理し分類した。安心・安全の項目で防災対策に関する記述と、都市整備の項目で道路整備・拡幅に関する記述が多かった。

項目	内容	件数
こども・教育・文化	保育所等子育て環境、子育て支援	7
	教育の充実・学校施設整備	20
	生涯学習・文化振興	7
	公民館・歴史館・図書館等文化施設整備充実	11
	スポーツ施設(体育館、プール、ジム)整備・充実	12
健康・福祉	健康づくり	3
	ふれ愛センター	8
	医療施設、医療補助	15
	高齢者・障害者等への福祉サービス・支援	9
安心・安全	防災対策(町内放送、台風被害、南海トラフ地震の不安、高潮・津波避難場所、防災訓練)	37
	交通安全対策(信号、ミラー、一方通行)	13
	路上駐車問題	4
	治安・防犯対策(防犯灯・防犯カメラ)	15
生活環境	買物利便性向上(スーパー・日用品の買い物)	24
	交通利便性向上(コミュニティバス、バス増便、カーシェアリング)	20
	ごみ処理、環境保全	12
	環境美化(除草など)・緑化活動	5
都市整備	道路(歩道など)整備・拡幅	29
	駅前・駅周辺整備、駅有人化	21
	市街地整備(住宅等)、空家対策	7
	公園(子どもの遊び場)整備	14
	河川整備、海岸・マールビーチの整備、海釣り公園の設置	6
	インフラ・下水道(水洗化)整備	3
産業	産業振興(日曜朝市、漁港活性化、農業振興、商店街活性化、観光)	19
	町内での働く場	4

項目	内容	件数
まちづくりに望むこと	地域活動・イベント・交流活動・祭り	14
	住民参画・官民協働・住民意見の反映	7
	政策(広域連携、他にない特色ある取り組み、国際化ほか)	16
	コンパクトなまち(望むまち)	8
	安全・安心して暮らせるまち(望むまち)	7
	静かな、緑豊かなまち(望むまち)	3
	子育てしやすい、子どもや若者が暮らしやすいまち(望むまち)	7
その他望むまち(平和なまち、音楽・スポーツのまち)	3	
田尻町の評価	住みやすい、良いまち、子育てしやすい、田尻町が好き	21
行政	情報発信、PR、広報	11
	町財政・税金	8
	行政サービス	4
	町職員の対応	9
	議会・議員	2
その他	アンケートについて	6
	特になし	16
	その他	14
記述回答者数		287

(2)第5次田尻町総合計画策定に係る住民ワークショップ

第5次田尻町総合計画を策定するにあたり、住民参画による計画づくりを行うために、様々な世代、立場の人が参加する住民ワークショップを開催した。

参加者は各回とも、町内関係団体（地区連合会、婦人会、長友会連合会、PTA 連絡協議会、社会福祉協議会、農業委員会、漁業組合）から推薦された者 8 名、一般公募により選定された者 4 名の 12 名だった。

住民ワークショップ開催概要

	テーマ	日時・場所
第1回	「ひとが輝き、未来につながるまち田尻」 (子育て、教育、生涯学習、歴史文化、国際化、人権)	平成31年1月26日(土) 午前10時～ ふれ愛センター1階団体活動室
第2回	「健やかで、安心して暮らせるまち田尻」 (健康づくり、地域福祉、地域コミュニティ、安全安心)	平成31年2月9日(土) 午前10時～ ふれ愛センター1階団体活動室
第3回	「資源が活かされ、魅力あるまち田尻」 (都市整備、産業振興、生活環境、環境保全)	平成31年2月23日(土) 午前10時～ ふれ愛センター1階団体活動室



第1回～第3回のワークショップでの意見を次にまとめた。

1)第1回ワークショップでの主な意見

○子育て

現状 (良いところ・良くしたいこと)・課題	アイデアなど
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティの減少で子育てが人任せになっている。 ・世代間の交流がなかなか取りにくい状況がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな意見を言える多様なコミュニケーションの場、グループの共有できる場をつくる。 ・世代間で引き継ぎ、うまくレクチャーできるようにしていく。

○教育

現状 (良いところ・良くしたいこと)・課題	アイデアなど
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校・中学校を一緒に過ごすため、高校に行った時に同級生と離れるという高校1年の壁がある。 ・田尻町の小中一貫教育は良いが、ちょっとぬるま湯なところがある。 ・教育の小中一貫はいいことだが、現在はPRが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流で子どもたちを外に出す、外の刺激を受ける機会があればいい。 ・子どもの良いところを伸ばす教育があってもいい。 ・教職員の一体化を図ってまとまってもらいたい。 ・教育現場の中身が見えるようにする。 ・町で唯一の小中をPRし、課題を住民に広く共有できるようにする。 ・小中一貫は、町で建物の一体化を目指す。 ・大きなものを建ててしまっって、その後に人口が減るとどうなるか、先を見込まないといけない。 ・建物の一体化でソフトも充実できる。

○生涯学習

現状 (良いところ・良くしたいこと)・課題	アイデアなど
<ul style="list-style-type: none"> ・どこの団体でも全然若手がない。次世代の育成が課題になっている。 ・田尻町には図書室はあるが図書館はない。 ・子どもたちの筋力・体力が低い。子どもたちの体力の強化が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代の育成は町全体で。 ・図書館の建設が望まれる。 ・子どもたちに限らず、住民全体の健康づくり、そういう施設があればいい。

○歴史文化

現状 (良いところ・良くしたいこと)・課題	アイデアなど
<ul style="list-style-type: none"> ・黄玉ねぎ、どこにもないような、ここが発祥の玉ねぎがある。 ・田尻町の歴史と文化、街並みの保全と田尻町歴史館の有効利用。 ・紡績や黄玉ねぎなど歴史はあるが、それを若い世代、特に田尻町に外から来た人はよく知らない。 ・歴史について興味を持ってもらわないと、「知る」機会にはつながらない。どうやって興味を持ってもらうかから考えないといけない。 ・歴史が好き人は自分で調べて行く。ネット上でもいいから、調べるもとになる情報を提示している場所がないといけない。 ・祭りやお千度講などいろいろなところで担い手が不足している。 ・神社は氏子、寺は檀家が少なくなっている。個人情報で役所も中学校も名簿を出さない。入会してもらうのに情報がなく、神社として困っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・泉州吉見の黄玉ねぎの復活。生産者も必要、そしてネット・SNSでしっかり発信。 ・歴史館はランドマークとしてもっと大事に育てていく。建物が歴史を表しているとしても、歴史館はもっと歴史的な展示を増やさなければいけない。 ・歴史文化のPRが必要。語り部を作って、学校で歴史や祭りについて語って教える時間もつくる。小さい頃から知って、参加していくことが、継承していくことにつながる。 ・子どもだけでなく、若い世代にどう興味を持たせていくか考えていく。公民館の歴史に詳しい人をお願いして、歴史マンガのような、みんなにわかるようなものをつくってはどうか。 ・新しく転入してきた人にも門戸を広げて募集はしているが、そういうものがあること自体を知らない。歴史に興味を持ってもらい、理解を深めていったら、担い手ができていくのではないかな。

○国際化

現状 (良いところ・良くしたいこと)・課題	アイデアなど
<ul style="list-style-type: none"> ・関空から近いので、外国人と接する機会が多い。 ・関西国際センターと町民とのふれあいの場があまりにも少ないのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントがあるごとに関西国際センターの方にいって時間を共有するよう、簡単なことから増やしていく。



2)第2回ワークショップでの主な意見

○健康づくり

現状 (良いところ・良くしたいこと)・課題	アイデアなど
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が参加する健康教室・クラブは多いが、若い世代や親子で参加できるものが少ない。 ・ふれ愛センターの教室、体操などメニューがマンネリ化している。 ・クラブは色々あるが、それを知らない人が多い。 ・健康づくりは体だけではなく、心の健康も大事。 ・認知症予防で麻雀や俳句クラブをやっている。 ・広場に健康器具が多いが、実際にはあまり使われていないのではないか。 ・ラジオ体操が盛ん。ラジオ体操に出てくれば知り合いも増える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働いている人、若い世代や親子で参加できるもの、夜の講座や参加しやすい時間帯があるといい。 ・運動教室は、メニューを少しひねって整理しては。 ・ポイント制を親子などにも広げたらどうか。 ・いろいろな活動があることを、広報やHP、伝言板・掲示板、SNSでもっとPRする。 ・子どももゲーム感覚の麻雀で高齢者とふれあう交流麻雀大会などあってもいいのでは。 ・健康器具は、色の塗替えなど模様替えできいいにしては。みんなが使えるように使い方をデモンストレーションしてはどうか。

○地域福祉

現状 (良いところ・良くしたいこと)・課題	アイデアなど
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が増えている中で、病院や買い物に行く交通手段が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・田尻町でもコミュニティバスがあればいい。 ・ふれ愛センターなど利用しやすい所に日用品を置いた売店的なものがあれば、お風呂の帰りなどに高齢者が買い物できる。

○地域コミュニティ

現状 (良いところ・良くしたいこと)・課題	アイデアなど
<ul style="list-style-type: none"> ・昔のように気安く出入りする隣近所のお付き合いが、今はできなくなっている。 ・今の時代のコミュニケーションの取り方を考えないといけない。 ・田尻町は結びつきが強すぎて、他所から来た人が地域に入りづらい。 ・地区会に入らない方もいる。 ・地区会に若い人が参加しにくい。 ・みんなが自由に集まれる場所が少ない。 ・各種団体の次世代の育成は、これから先まだまだ問題になってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しく移ってきた方たちに、地区会でどういう活動をしているか説明することが大事だ。 ・福祉風呂は高齢者によく利用されているので、行けば色々な情報が得られるようにするとよい。 ・町内マラソン大会や駅伝大会、綱引きなどは、若い人も参加するのでは。健康づくりにもつながる。 ・老若男女みんなが集まれる場所として、屋根付き広場（仮称たじりっち広場）を有効活用する。 ・ドキドキ広場など放課後、土日を使った地域との交流の機会をつくる。 ・教員と地域との交流を増やす。教育アシスタントを増員して教員の負担を減らす。各PTAが協力したらいいのではないか。



○安心安全

現状 (良いところ・良くしたいこと)・課題	アイデアなど
<ul style="list-style-type: none"> ・防災グッズの配布や防犯カメラが町の面積に比べるとたくさん設置されていて、ありがたい。 ・地震があった場合、いざ避難しようとなった時には、福祉委員などの役の人だけでは無理があり、近所の助け合いが大事。 ・以前は地区会を中心に地区の人たちが班で集まって避難訓練をやっていたが、今は途切れている。 ・高潮対策、防潮対策について、十分な説明・対策がない。住民にはいざという時どうしたらいいかのイメージがわからない。 ・田尻町は道が狭い。 ・信号機がない所は行き難い。 ・町内に空地、空家、空店舗が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近所同士で助け合って逃げる訓練をしては。 ・訓練をより密に深化し発展させ、つなげていき、成果が出るような訓練にしていく。 ・防災イベントは、遊び感覚で参加しやすいやり方で継続して実施する。 ・いざという時の避難場所、具体的にどうしたらいいか、町から住民にもっと情報発信をした方がいい。 ・防災について学校教育で子どもにしっかりと教え、それを地域に広げることで大人も共通認識を持っていれば防災に役立つ。 ・防災は、自分で自身を守る「自助」、隣組などお互いが助け合う「共助」の2つが基本になる。 ・地区会、隣保班、婦人会、こども会、PTAなど色々な組織を一つのものとして自主防災の組織を立ち上げていく。 ・安全に子どもたちや高齢者が通れるように、一方通行や時間規制などをできる所から考えては。 ・声かけ運動を町民がさかんにする。誰でも子どもたちにも「こんにちは」「おはようございます」と声をかけよう。防犯につながるのでは。 ・空家対策に関して、町が発信している情報を利用して、みんなで対応できるようにしていく。空家を使って起業できるよう、町の支援、バックアップがあるといい。町のリーダーシップを期待する。

3)第3回ワークショップでの主な意見

○都市整備

現状(良いところ・良くしたいこと)・課題	アイデアなど
<ul style="list-style-type: none"> ・田尻町は道路が狭すぎる。 ・駅周辺の通学路が危険である。 ・駅周辺に活気がない所がある。道をもう少し拡張できれば車も通りやすくなる。 ・吉見ノ里駅を大阪側に少し移動させ、踏切を拡張してもらいたい。 ・限られた小さい町で空地をどう利用するか。 ・漁業組合としては、もっと広い駐車場があったらいい。 ・町営グラウンドの使い方が課題。 ・嘉祥寺の墓地の駐車場が狭い。駐車場を広くできないか。 ・マーブルビーチは裸足では歩けない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなかの道路拡幅は難しいので、できるだけ中心を通らないように迂回できる道をつくってはどうか。 ・ふたをした田尻川上流を通学路にしてはどうか。 ・道路の電柱を地中化しては。田尻町独自で田尻町全部の電柱の地中化を考えてはどうか。 ・駅下に関しては拡幅は難しいようだが、縦に伸びるマンションなどを建てれば道路を広げられるのでは。 ・一方、高層住宅で賃貸を増やすと若い人達が定住しなくなるのではないか。 ・駅のバリアフリー化に関連して、下りの方にも改札口があった方、両側からは入れて利用しやすい。 ・市街化調整区域の再検討と、それに付随して空家の対策も考えてはどうか。 ・田尻町では 100m×100m位のグラウンドが欲しい。各市町村と付き合う時にその位の面積が必要な事業がある。 ・納骨堂の建設、そういうものがあれば墓地として管理しやすいのではないか。 ・マーブルビーチの南側に、若者たちが集まる場所が何かあればいい。例えば海水プール、砂浜のビーチ、スケートボード・クライミングができる施設などがあれば若い子たちが来るのではないか。

○産業振興

現状(良いところ・良くしたいこと)・課題	アイデアなど
<ul style="list-style-type: none"> ・黄玉ねぎを朝市の農業漁業祭で売っているが、販売期間が短いので買いたい方も買えない。 ・黄玉ねぎは収穫時期が短く、痛むのが早いので売れる時期も短い。ファーマーズ的なものをつくっても、生産者も生産量も少ないので年間を通しての運営がかなり難しい。 ・黄玉ねぎをつくるのは手間がかかり、農業者が高齢化しているので生産を増やすのが難しい。 ・最近インバウンドが増えているが、買い物に使う金額は少ない。 ・外国人観光客の誘致について、町としてのスタンスはどうなのか。また住民の意識は、来て欲しいのかどうか。 ・朝市に来る観光客では、レンタカーで来る方がたくさん買って帰られる。 ・田尻町内に食堂がないので食堂をつくっては。 ・田尻町は人口 8000 人しかないので、田尻町内で何か商売をすることより、田尻町の外へ品物を供給したりマーケットをつくったりすることを考えたらどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・試験的に期間限定で場所を設け、黄玉ねぎを販売・PR してはどうか。お客さんがつくようであれば、期間を延ばすか、常設にすればいいのではないか。 ・土地を貸して、趣味の人に黄玉ねぎづくりに協力してもらってはどうか。 ・広い優良な農地は、農業企業を誘致してはどうか。雇用にもつながる。 ・町の体験や食べ物など観光ツアーで案内できるようにになれば、若い人の語学を活かす機会にもつながるのではないか。 ・観光客が買い物しやすいように、ホテルと連携したり、バスツアーに組み込んで来てもらうといいのではないか。 ・りんくうポート北にホテルが新しくできる。漁港も魚だけでなく、いろいろ売るものを増やして、そこに集約する形を考えてはどうか。 ・漁港の通りにキッチンカーを並べて販売しては。 ・空港をもっと活用して、産業を田尻町外の人に売るためのものを考えたら違う産業ができてくる。空港から運ぶのに、少量高付加価値、高価格なものの産業をもう一度呼び込めないか。 ・地域通貨ターゲットの取組みの復活。子どもたちにボランティアをしてもらうツールとして今は活用している。例えば商店街と一緒にやって、それで物が買えとなれば広がるのではないか。

○生活環境

現状(良いところ・良くしたいこと)・課題	アイデアなど
<ul style="list-style-type: none"> ・マーブルビーチは、ゴールデンウィークなど、バーベキューをする人が多く、においやゴミの問題がある。駐車場が少なく、路上駐車や、コンビニなど周辺施設への駐車が多い。 ・去年の台風の後、浮遊物のゴミが多く、町の回収が終わってから流れ着くゴミの処分に困っている。 ・漁港内には不法投棄も多く、カメラはついているがそこまでは捉えられず、なかなか減らない。釣りに来られる方のゴミも多い。 ・漁港に野良猫がたくさんいる。現在ボランティアの方が去勢や避妊手術をしているが、他所から持ち込まれる猫もいて、なかなか減らない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・野良猫が多い。野良猫に餌付けしているのもよくないのでは。

○環境保全

現状(良いところ・良くしたいこと)・課題	アイデアなど
<ul style="list-style-type: none"> ・駅前の木にイルミネーションを付けている時期があるが、夜はきれいだが昼間に見るとあまりよくない。夜も昼も見てもきれいにできないか。 ・埋立地には大きな木がない。歴史を据えるために大きな木があったら環境が良くなるだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電気自動車や水素自動車が、充電・補充できるようなステーションがあればいいのではないか。 ・大きな木を大事にして、町のシンボルになるような大きな木を育てよう。松とか楠のような木がいい。



5. 田尻町の課題

1)人口減少と少子高齢化への対応

田尻町では、関西国際空港開港を契機に人口増加が続いているが、今後は住宅開発による人口流入が鈍化することから、人口が減少に転じることが予測される。一方で、年ごとに老年人口比率は高くなっており、年少人口比率は横ばいではあるが、高齢化が進行している。

今後は人口減少と少子高齢化への対応として、人口の維持と均衡のとれた人口構成の維持が求められる。

子ども、高齢者、若い人や働き盛りの人も含め、すべてのライフステージの住民が住みやすいまちづくりに取り組む必要がある。

<まちづくりの課題>

- 田尻町で子どもを育てたいと思えるまちづくり
- 誰もが健康に暮らせるまちづくり
- 若い人や働き盛りの人が魅力を感じて住み続けることができるまちづくり
- 人口規模に対応した適正な都市機能の維持・整備

2)安全・安心への意識の高まりへの対応

田尻町は海に面していることから、地震に伴う津波や高潮などの災害に十分に備えておく必要がある。災害に強い安全・安心のまちづくりには「自助・共助・公助」の考え方によるまちづくりが求められる。

高齢者や単身世帯が増加していることなどにより、災害や犯罪の脅威に対する抵抗力が低下していることに加え、地域での人のつながりの希薄化がみられ、あらためて安全・安心の確保に対する社会的な取り組みが求められる。

<まちづくりの課題>

- 総合的な防災体制の充実
- 自助・共助による防災力の向上
- 協働による防犯・交通安全対策の取り組み

3)国際化の進展への対応

田尻町に立地する関西国際空港の航空旅客数は、2011（平成 23）年以降増加しており、特に国際線利用は 2011（平成 23）年の 2 倍に伸びている。町内には 4 つのホテルがあり、2019（平成 31）年春には町内最大規模となるホテルが新設される。町内に宿泊する外国人旅行者への対応が期待される。

また関西国際センターが立地しており、研修生との交流が続けられてきた。今後は町民との交流の広がり求められる。

<まちづくりの課題>

- 関西国際空港の立地を活かした産業の振興（農業・漁業・観光）
- 国際化に対応した特色ある教育
- 関西国際センターの立地を活かした国際交流

4)地域の自主性を高める取り組み

田尻町では地区会、婦人会、青年団、こども会などの組織が地域活動を担っているが、各団体の人材の確保が課題となっている。今後は N P O 等のテーマ型の活動団体との連携など組織の枠を超えた連携を検討し、地域の活力を維持・増大していく必要がある。一人ひとりが自らの課題を自主的に解決し、他人や地域・社会のことを考え、自分のできる範囲で活動する町民を増やしていくことが求められる。

<まちづくりの課題>

- 地域コミュニティの充実
- 住民と行政との協働によるまちづくり
- 地域資源を活用し、選択と集中による効果的な行政運営